

年 次 報 告



2025

一般社団法人四日市青年会議所



◎一般社団法人四日市青年会議所2025年度スローガン

もっと力強い四日市へ。
さあ、頑張ろうぜ！

2025年度
第71代理事長
仲野 仁裕

◎公益社団法人日本青年会議所 2025年度スローガン

Raise Your Flag
理想への挑戦

◎公益社団法人日本青年会議所東海地区協議会 2025年度基本理念
繋がりが実現する 未来に誇れる
強くしなやかな東海の創造

◎公益社団法人日本青年会議所東海地区三重ブロック協議会 2025年度スローガン
挑戦心で未来を創る



直前理事長
石川史織



副理事長
田中俊太郎



副理事長
西田真之



副理事長
森山陽介



副理事長
清水一輝



専務理事
蛭波敬



監事
野呂京志



監事
後藤亮太



雨港會長
詹曜瑄(安咕)

目 次

- ・ 理事長報告 6
- ・ 2025年度理事長公職 7
- ・ 副理事長、専務理事、監事報告 8
- ・ 総会並びに理事会報告 14
- ・ 事業日程 18
- ・ 委員会報告 23
- ・ 日本JC、東海地区、三重ブロック派遣報告 41
- ・ 例会出欠率 47
- ・ 2025年度決算報告 49

2025年度 事業報告並びに決算報告

理事長報告

2025年度 第71代理事長

仲野 仁裕

今年度第71代理事長そして四日市青年会議所70周年という節目の年をお預かりし、一年間を通じて「変化の起点となること」を強く意識して一年を歩んでまいりました。この想いを言葉として伝える機会は多くありませんでしたが、改めて皆様にお伝えできればと思います。

私が今年の理事長所信を例年より短くした理由は、会員一人ひとりの「主体性」を最大限に引き出すことが目的でありました。青年会議所は、誰かから答えを与えられる場ではなく、自ら考え行動し、仲間を導くリーダーとなる「成長の場」です。もし所信を細かく書き込めば、皆さんはその枠の中で動いてしまうかもしれない。だからこそ、あえて余白を残し、皆さんが自らの力で生み出す運動を信じて任せることにしました。

今年度、掲げたスローガンは「もっと力強い四日市へ。さあ、頑張ろうぜ！」

その言葉の通り、青年会議所の運動の可能性は数多くあれど、今年は徹底して四日市に軸を置きました。会員数が減少する状況で、広いテーマを追いかければ、地域に対して十分な変化をもたらすことはできません。70周年という契機だからこそ、我々の原点に立ち返り、このまちに対して本気でコミットする一年にしたかったのです。

では、この一年の結果はどうだったのか。

その答えは今この瞬間に結論が出るものではありません。各例会・事業は報告議案として形になりますが、運動の真価は「未来にどんな変化を残せたか」で測るものです。そういう意味では私は胸を張って「今年は大成功の一年だった」と言えます。なぜなら、皆さんが本気で考え、本気で行動し、四日市に新しい選択肢や視点を提示し続けてくれたからです。ただし、70周年が本当に成功だったのかどうか。それを決めるのは、今後の四日市青年会議所がどのように変化していくか、そして皆さん自身の人生がどう彩られていくかにかかっています。

私たちは今を生きています。「中今（なかいま）」という言葉のとおり、過去と未来の間にあるこの瞬間に、我々の意思と行動が宿ります。過去が今につながり、今の行動が未来につながる。だからこそ、今の行動に使命感を持って向き合うことが、未来をつくる唯一の道なのです。

理事長という役割は非常に特別で、常に矢面に立ち、どんな場面でもこの会の名を背負います。しかし私は一年を通じて、「理事長という肩書」以上に、四日市青年会議所という組織そのものと、会員一人ひとりの人生を背負っている感覚がありました。その覚悟があったからこそ、この一年は私にとって本当にかげがえのない時間でした。

一年間、共に歩んでくださった皆さん、本当にありがとうございました。

もっと力強い四日市へ。
さあ、頑張ろうぜ！

2025年度 理事長公職

1.	四日市市海洋少年団後援会	会 員
2.	四日市ロードレース大会実行委員会	監 事
3.	暴力団追放三泗地区 市町民会議	理 事
4.	大四日市まつり実行委員会	委 員
5.	四日市港まつり実行委員会	委 員
6.	四日市市青少年育成市民会議	委 員
7.	四日市市社会福祉協議会	理 事
8.	四日市市「男女がいきいきと働き続けられる企業」表彰選考委員会	委 員

対外事業窓口

1.	海洋少年団	地域活性化委員会
2.	四日市市献血推進	ブランディング委員会
3.	四日市港まつり実行委員会	地域活性化委員会

副理事長報告

副理事長 田中俊太郎

本年度、仲野理事長の掲げる「もっと力強い四日市へ。さあ、頑張ろうぜ！」のスローガンのもと、私はブランディング委員会の担当副理事長として活動してまいりました。ブランディング委員会は、会員一人ひとりの資質向上と会員拡大を主軸に、個の成長が組織の力となり、地域により大きな価値を生み出すことを目的に一年間運動を展開してきました。全会員を巻き込んだ拡大チーム制の導入や、研修生、新入会員へのフォロー体制の強化など、多面的な取り組みを進めてまいりました。

しかしその歩みは決して容易ではありませんでした。当初より「本当に会員拡大が成功するのか」「副理事長として会をどう導くべきか」という不安が常にありました。また、途中で一部の理事が不在となり、二つの委員会を並行してみる状況となったことで、副理事長が全体を公平に見渡し、必要な判断を行う責任の重さを強く感じる一年となりました。

そのような中でも、杉谷委員長、真弓副委員長を中心に、2月度、9月度例会では委員会全員が主体的に動き、新入会員も前向きに活動へ参加してくれました。委員長とは多く議論を重ねる場面もありましたが、そのたびに委員長の視野や判断力が成長していく姿を間近で見られたことは、私にとって大きな喜びであり、この一年の大きな成果でありました。メンバー同士が刺激し合い、成長が波及していく委員会の空気をつくれたことは、ブランディング委員会の大きな財産です。

一方で、会員拡大では、一部のメンバーに動きが偏る状況や、ブランディング委員会への負担が大きくなるという課題も顕在化しました。青年会議所活動に前向きな会員ほど拡大ができていた現実からも、全会員が自分事として拡大と向き合うことの重要性を改めて痛感しました。この課題を克服したとき、四日市青年会議所はさらに持続可能な団体へ成長できると確信しております。

一年間副理事長として活動する中で、「理事長と委員長の間でどう伝えるか」「メンバーにどう行動を促すか」「組織の未来をどう描くか」という視点が身につき、自身の成長を強く実感しています。

最後に、一年間ともに歩んでいただいた杉谷委員長、真弓副委員長、そして委員会メンバーの皆さまに心より感謝申し上げます。今年入会された皆さま、延いては全会員が将来JAYCEEとして地域を牽引する姿を想像すると、本当に楽しみでなりません。「今年で良かった」と胸を張って言える一年を与えてくださったすべての皆さまに感謝し、副理事長報告とさせていただきます。

副理事長報告

副理事長 西田 真之

本年度、四日市青年会議所は創立70周年という大きな節目を迎える中、副理事長として理事長所信と各委員会の基本方針をつなぐ役割を担い、会の円滑な運営と委員会活動の充実に努めてまいりました。年初に掲げた所信では、会員減少という課題を背景に、各メンバーが社会課題を「自分事」として捉え、委員会という組織の中で連携しながら課題解決に取り組むことの重要性を示しました。その方針に基づき、理事会構成メンバーに対しては、議案の構築支援や委員会運営に必要な情報提供を通じて、各自が責任を持って活動できるよう意識の醸成を図ってまいりました。

私は本年度、地域活性化委員会を担当し、副理事長として委員会の企画や運営が円滑に行われるよう支援いたしました。前年度は地域活性委員会の委員長を経験し、今年度は地域活性化の副理事長を経験するという大変貴重な機会をいただきました。やる立場からやっただく立場に変化し、とても大変でしたがやりがいのある職務だと感じました。委員会メンバーには入会歴が浅いメンバーや仮配属のメンバーにもさまざまな経験をしていただき、地域や青少年についての関係性や知識を身に付けていただきました。

また、地域活性化委員会の活動としては4月には地域の魅力を再発見し、メンバーが自らの言葉でまちを発信する力を養う例会が行われました。参加者が情報発信を通じて地域とのつながりを深める様子は、委員会の方向性と合致した非常に意義深いものとなりました。本会の方とも接点を持つことができ、今後の活動にも活かしていきたいです。

8月の青少年事業では、子どもたちと地域社会のつながりを強める場が創出されました。市外からの参加もあり、四日市の魅力を広く伝えることにも成功しました。青少年にとっても地域住民にとっても、交流の中で生まれる変化は大きく、まちづくり活動の原点を感じさせる瞬間でした。伝統文化の担い手は経験してもらってこそ、増えていくのだと感じました。また、他の委員会と手を組んでより大きな事業になったと感じました。

10月にはリアルすごろくゲームの例会によって、まち歩きとSNS発信を掛け合わせた新たな試みを実施され、参加者や地域住民、店舗が一体となって四日市の魅力を再発見する好機となりました。委員会メンバーも主導的な立場として成長し、まちを盛り上げる意識がより一層高まりました。

副理事長間での連携や協力体制も重視し、組織全体の調和と一体感を高めることを心がけました。青年会議所の活動を通じて、人と人がつながり、まちへの思いがかたちになる過程を見守ることができたことは、私自身にとっても貴重な学びとなりました。

これからも我々は、社会課題の解決に取り組む団体として、地域に必要とされる存在であり続けるべく、志を共にする仲間と力を合わせて歩み続けてまいります。さまざまな経験ができ、支えていただき、一年間本当にありがとうございました。

副理事長報告

副理事長 森山 陽介

本年度は、仲野理事長が掲げる「もっと力強い四日市へ。さあ、頑張ろうぜ！」のスローガンのもと、本年度にしかない70周年記念委員会を担当させていただきました。早川委員長が率いる70周年記念委員会では、3例会1事業を通じて、これまで先輩諸兄姉が積み上げてきた青年会議所の歴史を紐解くことから始まり、70周年の節目に、「中今」を生きる我々が地域に必要とされる団体としてまちの新たな可能性と未来を描く運動を行ってまいりました。3月度例会では、四日市青年会議所の歴史を創り上げてきた先輩諸兄姉をお招きし、これまでの四日市青年会議所の運動について教えていただき、会員は四日市青年会議所での活動に意欲を高めることができました。また、年当初から創立70周年記念式典及び祝賀会に向けた事前案内に取り組み、行政、各地会員会議所、姉妹JC、先輩諸兄姉に向けて、創立70周年記念式典及び祝賀会が開催される記念すべき年であることを広く周知してまいりました。そのおかげもあり、創立70周年記念式典及び祝賀会には多くの皆様にご参加いただき、創立70周年を祝うとともに、これからの四日市青年会議所としての姿を知っていただくことができました。8月度例会としては、70周年記念を冠する例会として地域の企業や団体と共に、地域をより良くしたいと願う人々をつなぎ、まちを動かす起点となる例会を開催し、地域の方々にこのまちへの関心をさらに高めてもらいました。

初めての理事となる早川委員長でしたが、2024年度三重ブロック協議会の財政局長としてご活躍されていた経歴もあり、初めての理事とは思えないほど議案構築をすることに長けており、その中でも日々成長をしていく姿に私自身も負けん気を高めることができました。高茂副委員長は2年連続の理事として早川委員長をサポートする役回りに徹し、持ち前の行動力を発揮し全力で委員会を盛り上げてくれました。おふたりには「青年会議所はなぜそこまでしなければならないのか」といったことを私の説明だけでは伝えきることができませんでした。これは私の力不足でありましたが、理事へ指導をする副理事長として説明することの大切さを学ぶことができた大変有意義な一年となりました。2026年度以降の活動の中でも、議論することの大切さや、委員会メンバーと共に目的に向かって活動したこの一年間を忘れずにいてくれれば、自身が考える青年会議所の本質という答えを深めてくれると確信しております。

最後に、初めて執行部という立ち位置で一年間を過ごす中で、この執行部メンバーで活動ができたことは、私にとって密度の濃い時間を与えてくれました。早川委員長と高茂副委員長には感謝を申し上げるとともに、この機会をくださった仲野理事長、共に高め合った副理事長、厳しさがあながらも寄り添ってくれた専務理事に感謝を申し上げ、私の副理事長報告とさせていただきます。

副理事長報告

副理事長 清水 一輝

本年、仲野理事長が掲げる「もっと力強い四日市へ。さあ、頑張ろうぜ！」のスローガンのもと、渉外委員会を担当し、一年間活動に取り組んでまいりました。渉外委員会は、対外関係の窓口として地域、国内外の青年会議所との連携を担い、組織の信頼性向上と存在感の発信という重責を担う委員会です。その役割を果たすため、委員会一同が一丸となって事業に臨んでまいりました。

渉外委員会は、伊藤委員長、中野副委員長という“初理事”の二名を中心に、1月の賀詞交換会、京都会議の設営という大きな事業から始動いたしました。年初の慌ただしい時期にも関わらず、委員会メンバー一人ひとりが役割を理解し、積極的に動いたことで、両事業とも問題なく成功裏に終わることができました。この初動の成功は、委員会内の結束を強めるとともに、理事会内においても渉外委員会への信頼を大きく高める契機となりました。また、本年度は四日市青年会議所70周年という節目の年でもあり、例年とは異なる渉外対応が多く求められました。特に5月には、雨港国際青年商會の皆さまが周年事業に先立って来日され、通常とは異なるスケジュール、段取りの中で事前調整や受け入れ準備に奔走する日々となりました。限られた時間の中でメンバーが柔軟に動き、各所と連携を取りながら無事に対応を終えられたことは、委員会の対応力の向上を感じられる場面でした。その後も渉外委員会は一年を通して多くの大会・公式事業に関わりました。6月のASPACモンゴル大会、7月のサマーコンファレンス（横浜）、9月の雨港訪問、そして10月の全国大会（佐賀）と、国内外を問わず多くの地へ赴き、四日市青年会議所を代表して参加し、各地での交流を深めてまいりました。現地でのアテンド、式典対応、調整業務などは決して容易なものではありませんが、委員会メンバーが主体的に動き、責任感を持って取り組む姿は非常に頼もしく、組織外に対しても“四日市JCの力強さ”を示すことができました。11月には家族例会を担当し、協議段階から審議・当日の実施に至るまで、多くの課題に直面しながらも、委員会で協力し合い企画を作り上げていきました。苦勞の多い例会でありましたが、最終的に多くのメンバーから温かい言葉をいただくことができ、委員会として大きな成長を感じる機会となりました。

本年、私は初めて副理事長職をお預かりし、渉外という広い領域を預かる立場として、多くの学びと反省を得ました。自身の力不足を痛感する場面も多くありましたが、それ以上に渉外委員会メンバーの力強さ、主体性、責任感に何度も助けられました。委員長・副委員長を中心に、誰一人として逃げず、最後までやり抜く姿を見せてくれたことは、私にとって何よりの財産であり、この一年を共に乗り越えてくれた委員会メンバーに深く感謝しております。本年度の渉外委員会が積み上げた経験と成果は、必ずや次年度以降の活動の大きな基盤となると確信しております。一年間、本当にありがとうございました。

専務理事報告

専務理事 蛭波 敬

本年度、創立70周年を迎える節目の年に、仲野理事長の掲げる「もっと力強い四日市へ。さあ、頑張ろうぜ！」のスローガンのもと、専務理事の役割をお預かりしました。組織の活動を円滑に、また効率よく運営するため、自分自身がどうあるべきかを考えて活動させていたっていました。しかし、私自身の自覚のなさ、覚悟の甘さによって、仲野理事長をはじめ、執行部の皆様、会員の皆様にご迷惑をおかけすることとなり、大変申し訳ありませんでした。

2024年度に選任いただいてから前任の専務理事の動きを間近で見させてもらう立場であったため、準備段階から改善できるところはアップデートをしようと、事務局の理事の3名と、課題、対策、改善案について話し合いながら準備を進めてまいりました。2025年度が始まってからも、組織運営しながら、改善できることはないか、会員の負担を軽減できる方法はないかと、様々なツールや情報に触れ、試行錯誤を繰り返してきました。初理事ということもあり、分からないことに起因する不安に精一杯対処しながら、職を全うしてもらった伊藤事務局長、中島財務委員長、加藤事務局次長に心から感謝申し上げます。

年次報告で振り返り改めて強く感じることは、青年会議所という組織の力強さとしなやかさです。「変えないところは変えない。」その背景には確固たる理由があり、脈々と継承されてきています。一方で、生じた疑問についてはとことん追求して考えることは許容されています。疑問に感じ、追求し、議論し、変化させるところは、大胆かつ柔軟に変化させていく流れは、これまでの運動の中でも、同様のことが繰り返されて「今」に至ることを実感することができました。まさに2025年度の事務局が伊藤事務局長のもと、一年間継続してきたことであり、その成果として通常総会、臨時総会、卒業式を無事に開催し、その他多くの庶務も滞りなく全うすることができました。

専務理事としての役割は本当に多岐に渡り、すべてを書き出すことはできません。組織の運動が変容すれば、その分だけ専務理事の役割も変容します。その要職を初めから最後まで通して全うできなかったことを申し訳なく思うとともに、今後も専務理事という役割を担う方の一助となれるように少しでも私自身の振り返りを少しでも伝えたいと思っています。

最後に、多大なご迷惑をおかけしたにも関わらず、叱咤激励いただき報告書を書かせていただけたところまでできました。皆様のお力添えに感謝するとともに、お礼申し上げます。本当にありがとうございました。

監事報告

監事 野呂 京志
監事 後藤 亮太

青年会議所における監事という役職は、単なる会計や業務のチェック係ではありません。組織が健全な社会道德と規律を保ち、地域からの信頼を勝ち取り続けるための最後の砦であり、時として組織の良心としてメンバーに自律と自戒を促す、厳格な羅針盤たる役割を担っています。本年度、その重責を一身に受け止め、あえて嫌われ役を買って出る覚悟で、厳正な監査と指導を行ってまいりました。そこには、組織を停滞させないための配慮と、次代を担う皆様への期待があったことをご理解いただきたいと思います。

その上で、本年度の総括として、組織の未来を思うが故の、愛ある苦言と提言を記させていただきます。理事長は「もっと力強い四日市へ。さあ、頑張ろうぜ！」という熱いスローガンを掲げ、情熱と行動力で我々を引っ張ってくださいました。しかしその一方で、議案構築や運営管理にはまだまだ磨く余地があると感じました。決算議案における予算と実収支の乖離の多さは計画の甘さを示し、事業計画で掲げた目標数値の未達も少なくありませんでした。目標とは市民と会員に対する約束であり、達成への執念とプロセスの詰めが不足していたと反省せざるを得ません。また、多様性の尊重という言葉が、いつの間にか規律の緩みにすり替わってはいないでしょうか。互いを傷つけない優しさは大切ですが、詰めが甘くても許される空気の中では真のリーダーは育ちません。かつて先輩方から受け継いだ、胃が痛くなる緊張感の中での修練こそが、人を一回り大きく成長させるのだと思います。奉仕・修練・友情という三信条において、修練なき友情はただの仲良しクラブであり、修練なき奉仕は自己満足で終わります。理事長が掲げた「力強い四日市」を創るのは他でもない私たち自身です。

真に力強いJAYCEEとは、派手な事業を打ち上げる人ではなく、一円の収支にこだわり、一人の動員に全力を尽くし、泥臭くも丁寧な準備を積み重ねて、約束した数字を必ず達成しようとする人だと私は信じています。「さあ、頑張ろうぜ！」という言葉は、気合いを入れる掛け声であると共に、足元を見つめ直し、当たり前のことを当たり前にやり抜く覚悟を問う宣言だと思います。

次年度以降、皆様には今一度、修練の意味を問い直し、規律ある自由の中で成長していただきたいと思います。厳しさの中にこそ成長の種があり、その種を大切に育て続けることが、骨太で頼れる青年会議所をつくる道だと確信しています。最後になりますが、本年度、私に監事という貴重な修練の機会を与えてくださった仲野理事長、そして厳しい指摘にも真摯に耳を傾け、共に運動を展開してくださった全てのメンバーに心から感謝申し上げます。この愛すべき組織が、これからも地域にとって、なくてはならない存在として光を放ち続けることを心より祈念し、より一層の飛躍を願い、監事の年次報告とさせていただきます。

総会

1月13日(土)第125回通常総会 四日市市文化会館 四日市市地場産業振興センター 6階ホール
一般社団法人四日市青年会議所 2024年度事業報告(案)承認の件
一般社団法人四日市青年会議所 2024年度決算(案)承認の件
一般社団法人四日市青年会議所 2025年度組織図(案)承認の件
一般社団法人四日市青年会議所 2025年度事業計画(案)承認の件
一般社団法人四日市青年会議所 2025年度事業日程表(案)承認の件

6月10日(火)第一回臨時総会 四日市市文化会館 第3ホール

一般社団法人四日市青年会議所 2026年度理事長予定者承認の件
公益社団法人日本青年会議所 東海地区 三重ブロック協議会 2026年度会長候補者承認の件
一般社団法人四日市青年会議所 2026年度監事予定者選出の件
一般社団法人四日市青年会議所 2026年度理事予定者選出の件

7月23日(水)第二回臨時総会 四日市市文化会館 第3ホール

一般社団法人四日市青年会議所 2026年度理事予定者承認の件
一般社団法人四日市青年会議所 2026年度副理事長予定者承認の件
一般社団法人四日市青年会議所 2026年度専務理事予定者承認の件

理事会報告

第1回 1月4日(土)ルーム8階開催(ハイブリッド)

- 1) 一般社団法人四日市青年会議所 2025年度 理事長・副理事長・専務理事(案)承認の件
- 2) 一般社団法人四日市青年会議所 2025年度 理事予定者会議議決事項(案)一括承認の件
- 3) 一般社団法人四日市青年会議所 2024年度 旧理事会議決事項(案)承認の件
- 4) 入会希望者(案)承認の件
- 5) 一般社団法人四日市青年会議所 2025年度 委員会人員構成修正(案)承認の件
- 6) 一般社団法人四日市青年会議所 2025年度 事業日程表修正(案)承認の件
- 7) 創立70周年記念式典及び創立70周年祝賀会 事前案内実施(案)承認の件
- 8) 「個」のブランディングを高め組織で行う拡大活動(案)承認の件
- 9) 2月度例会(案)承認の件
- 10) 2025年度収支予算修正(案)承認の件
- 11) 「年間登録料一括預かり金」制度(案)承認の件

第2回 2月6日(木)ルーム8階開催(ハイブリッド)

- 1) 入会希望者(案)承認の件
- 2) 休会希望者(案)承認の件
- 3) 例会3ヶ月連続欠席者会員資格継続(案)承認の件
- 4) 3月度例会(案)承認の件

第3回 3月5日(水)ルーム8階開催(ハイブリッド)

- 1) 次年度役員選考委員会設置並びに委員選任(案)承認の件
- 2) 4月度例会(案)承認の件
- 3) 5月度例会(案)承認の件
- 4) 5月度事業(案)承認の件

第4回 4月3日(木)ルーム8階開催(ハイブリッド)

- 1) 新入会員(案)承認の件
- 2) 入会希望者(案)承認の件
- 3) 3月度例会収支補正予算(案)承認の件

第5回 4月25日(金)ルーム8階開催(ハイブリッド)

- 1) 新入会員(案)承認の件
- 2) 入会希望者(案)承認の件
- 3) 一般社団法人四日市青年会議所 2025年度 事業日程表修正(案)承認の件
- 4) 2025年度 収支予算修正(案)承認の件
- 5) 第一回臨時総会(案)承認の件
- 6) 第125回通常総会収支決算(案)並びに事業報告書(案)承認の件
- 7) 2月度例会収支決算(案)並びに剰余金処分(案)・事業報告(案)承認の件
- 8) 賀詞交歓会収支補正予算(案)承認の件

第6回 6月4日(水)ルーム8階開催(ハイブリッド)

- 1) 新入会員(案)承認の件
- 2) 入会希望者(案)承認の件
- 3) 第二回臨時総会(案)承認の件
- 4) 8月度例会(案)承認の件
- 5) 青少年育成基金・サルビア基金交付事業(案)承認の件
- 6) 賀詞交歓会収支決算(案)並びに剰余金処分(案)・事業報告書(案)承認の件

第7回 7月3日(木)ルーム8階開催(ハイブリッド)

- 1) 新入会員(案)承認の件
- 2) 入会希望者(案)承認の件
- 3) 例会3ヶ月連続欠席者会員資格継続(案)承認の件
- 4) 休会希望者(案)承認の件
- 5) 9月度例会(案)承認の件
- 6) 3月度例会収支決算(案)並びに剰余金処分(案)・事業報告書(案)承認の件
- 7) 4月度例会収支決算(案)並びに剰余金処分(案)・事業報告書(案)承認の件

第8回 7月30日(水)ルーム8階開催(ハイブリッド)

- 1) 新入会員(案)承認の件
- 2) 入会希望者(案)承認の件
- 3) 例会3ヶ月連続欠席者会員資格継続(案)承認の件
- 4) 10月度例会(案)承認の件
- 5) 5月度例会収支補正予算(案)承認の件

第9回 9月4日(木)ルーム8階開催(ハイブリッド)

- 1) 創立70周年記念式典及び創立70周年記念祝賀会 事前案内実施 収支決算(案)並びに剰余金処分(案)・事業報告書(案)承認の件
- 2) 5月度例会収支決算(案)並びに剰余金処分(案)・事業報告書(案)承認の件

第10回 10月6日(月)ルーム8階開催(ハイブリッド)

- 1) 11月度例会(案)承認の件
- 2) 5月度例会収支決算(案)並びに事業報告(案)承認の件
- 3) 第一回臨時総会収支決算(案)並びに事業報告(案)承認の件

第11回 11月10日(火)ルーム8階開催(ハイブリッド)

- 1) 創立70周年記念誌の発行(案)承認の件
- 2) 12月度例会(案)承認の件
- 3) 第二回臨時総会収支決算(案)並びに事業報告(案)承認の件

第12回 12月15日(月)ルーム8階開催(ハイブリッド)

- 1) 一般社団法人四日市青年会議所 2026年度委員会事業計画(案)並びに予算(案)承認の件
- 2) 一般社団法人四日市青年会議所 2026年度収支予算(案)承認の件
- 3) 新入会員(案)承認の件
- 4) 四日市JCシニアクラブ入会希望者(案)承認の件
- 5) 例会3ヶ月連続欠席者会員資格継続(案)承認の件
- 6) 「年間登録料一括預り金」制度修正(案)承認の件
- 7) 8月度例会補正予算(案)承認の件
- 8) 「個」のブランディングを高め組織で行う拡大活動収支補正予算(案)承認の件
- 9) 9月度例会収支決算(案)並びに剰余金処分(案)・事業報告書(案)承認の件

第13回 12月26日(金)ルーム8階開催(ハイブリッド)

- 1) 「個」のブランディングを高め組織で行う拡大活動収支決算(案)並びに剰余金処分(案)・事業報告書(案)承認の件
- 2) 年間登録料一括預かり金制度収支決算(案)並びに剰余金処分(案)・事業報告書(案)承認の件
- 3) 8月度例会収支決算(案)並びに剰余金処分(案)・事業報告書(案)承認の件
- 4) 青少年育成基金 サルビア基金交付事業収支決算(案)並びに剰余金処分(案)・事業報告書(案)承認の件
- 5) 10月度例会収支決算(案)並びに剰余金処分(案)・事業報告書(案)承認の件
- 6) 11月度例会収支決算(案)並びに剰余金処分(案)・事業報告書(案)承認の件
- 7) 創立70周年記念誌の発行収支予算(案)並びに剰余金処分(案)・事業報告書(案)承認の件
- 8) 12月度例会収支決算(案)並びに剰余金処分(案)・事業報告書(案)承認の件
- 9) 一般社団法人四日市青年会議所 2025年度収支決算(案)承認の件
- 10) 一般社団法人四日市青年会議所 2025年度事業報告書(案)承認の件

2025年度 事業日程

【1月】

4日	1月度理事会	ルーム
8日	JCI名古屋 賀詞交歓会	名古屋観光ホテル
9日	第1回会員拡大会議	ルーム
13日	第125回通常総会 賀詞交歓会	四日市地場産業振興センター 都ホテル
16日	第2回正副理事長会議	ルーム
18日	出向者を励ます会	鳥羽国際ホテル
22日	四日市市青少年市民育成会議	四日市市総合会館
24日	京都会議 日本青年会議所 理事会 東海地区協議会 第1回会員会議所会議	京都市内各所 国立京都国際会館 国立京都国際会館
25日	京都会議 日本青年会議所 総会	国立京都国際会館 国立京都国際会館
29日	四日市海洋少年団 意見交換会議	プラトンホテル

【2月】

5日	令和4年度 暴力追放三泗地区市町民大会	四日市市総合会館
6日	2月度理事会	ルーム
16日	第1回会員会議所会議	二富士
18日	一般社団法人おおさき青年会議所 新年祝賀会	アインパルラ浦島
19日	2月度例会	四日市市文化会館 第3ホール
20日	第3回正副理事長会議	ルーム
25日	次世代ビジョン拡大委員会訪問(三重BC協議会)	ルーム
24日	東海地区協議会 三重ブロック協議会共催 JCプログラム	松阪商工会議所

【3月】

5日	3月度理事会	ルーム
11日	3月度例会	四日市市文化会館 第3ホール
12日	JCプログラム スピーチセミナー	四日市市文化会館 第3ホール
16日	第2回会員会議所会議	鈴鹿市労働福祉会館
17日	3LOM合同会議	柿安 料亭本店
18日	会頭公式訪問	海女小屋 はちまんかまど
21日	第4回正副理事長会議	ルーム
22日	公益社団法人日本青年会議所 第180回総会	東京ビッグサイト
25日	じゃがいもクラブ3月度例会	タートルエースゴルフ倶楽部
26日	四日市市青少年育成会議	総合会館7階

【4月】

3日	4月度理事会	ルーム
11日	持続可能な国際開発委員会 全体委員会訪問 雨港国際青年商會 Zoomミーティング	ホテル湯の本 Zoom
15日	異業種交流会	四日市市文化会館 第3ホール
16日	四日市まつり実行委員会 第5回正副理事長会議	四日市市役所6階 ルーム
17日	4月度例会	四日市市文化会館 第3ホール
22日	第1回港まつり実行委員会	四日市港ポートビル
23日	じゃがいもクラブ4月度例会	グレイスヒルズカントリー倶 楽部
24日	太鼓チーム練習	(株)古川電気設備
25日	5月度理事会	ルーム
27日	三重BC スポーツ大会	志摩磯部ふれあい公園
28日	第2回会員拡大会議	ルーム

【5月】

8日	三重ブロック協議会 第1回臨時会員会議所会議	Zoom
12日	伊藤 輝史先輩 通夜式参列	四日市光倫会館
13日	伊藤 輝史先輩 告別式参列	四日市光倫会館
14日	雨港国際青年商會公式国際交流 国際交流会議	愛知県内 三重県内各所 ルーム
15日	四日市JCシニアクラブ総会 5月度例会 5月度事業 雨港国際青年商會公式国際交流	都ホテル 四日市市文化会館 第3ホール 四日市市文化会館 第1ホール HILLS 四日市本店
16日	雨港国際青年商會公式国際交流	愛知県内 三重県内各所
22日	第6回正副理事長会議	ルーム
23日	じゃがいもクラブ5月度例会	名四カントリークラブ
25日	第3回会員会議所会議	松阪商工会議所
27日	第55回三重ブロック大会 広報事業	鈴鹿市文化会館 けやきホール
28日	第1回青少年育成基金「サルビア基金」運営委 員会 次年度理事長候補者を囲む会	ルーム HILLS 四日市本店

【6月】

4日	6月度理事会	ルーム
9日	太鼓チーム練習	北楠公民館
10日	6月度例会 第一回臨時総会	四日市市文化会館 第3ホール
13日	JCI ASIA PACIFIC CONFERENCE	モンゴル ウランバートル
14日	JCI ASIA PACIFIC CONFERENCE	モンゴル ウランバートル
15日	JCI ASIA PACIFIC CONFERENCE	モンゴル ウランバートル

16日	JCI ASIA PACIFIC CONFERENCE	モンゴル ウランバートル
17日	じゃがいもクラブ6月度例会 JCI桑名・JCI四日市対抗戦	桑名カントリー倶楽部
19日	第7回正副理事長会議	ルーム
20日	社会福祉協議会理事会	四日市市総合会館本館
21日	太鼓チーム 自治会打合せ	四日市市内
26日	第2回東海地区会員会議所会議	TKPガーデンシティPREMIUM名 駅西口
28日	第2回臨時会員会議所会議	Zoom

【7月】

3日	7月度理事会 坂照明先輩 弔問	ルーム 坂照明先輩 ご自宅
4日	雨港国際青年商會 WEB 打合せ	Zoom
6日	東海地区協議会 JC プログラム JCI Impact	四日市市地場産業振興センター
11日	暴力追放三泗地区市町民大会 太鼓チーム練習	四日市市総合会館 北楠公民館
13日	第4回会員会議所会議	四日市市地場産業振興センター
15日	第8回正副理事長会議	ルーム
18日	サマーコンファレンス 2025	パシフィコ横浜
19日	サマーコンファレンス 2025	パシフィコ横浜
20日	サマーコンファレンス 2025	パシフィコ横浜
22日	ブランディング委員会 オリエンテーショ ン	がちま家 HONTEN
23日	7月度例会 第二回臨時総会	四日市市文化会館第3ホール
27日	じゃがいもクラブ8月度例会	鈴峰ゴルフ倶楽部
28日	太鼓チーム練習会	北楠公民館
30日	8月度理事会	ルーム
31日	太鼓チーム飾り付け	(株)LiFFF

【8月】

1日	四日市祭り JC 諏訪太鼓チーム	四日市市内
2日	四日市祭り JC 諏訪太鼓チーム	四日市市内
3日	四日市祭り JC 諏訪太鼓チーム	四日市市内
6日	地域の模範たる青年としての行動を考える交 通安全教室	四日市市市民交流会館（本 町プラザ）
9日	第3回臨時会員会議所会議	津市市民活動センター
10日	JC カップ東海大会激励	LA・PITA 東員スタジアム
19日	四日市市青少年育成会議	四日市市総合会館
20日	第9回正副理事長会議	ルーム

21 日	四日市市社会福祉協議会	四日市市総合会館
23 日	東海コンファレンス 2025	アイプラザ半田
25 日	JCI 桑名交流会	アソビックスあさひ
31 日	8 月度例会及びサルビア基金交付事業	四日市市市民公園
【9月】		
4 日	9 月度理事会	ルーム
5 日	雨港国際青年商會往訪交流 国際交流会議	台湾 基隆市内
6 日	雨港国際青年商會公式訪問	台湾
7 日	雨港国際青年商會公式訪問	台湾
14 日	第 5 回会員会議所会議	津商工会議所 5 階会議室
15 日	JCI 名古屋青年会議所 創立 75 周年記念式典 及び祝賀会	名古屋観光ホテル
17 日	第 10 回正副理事長会議	ルーム
19 日	じゃがいもクラブ 9 月度例会	ゴルフ 5 カントリー四日市コース
21 日	森勝幸先輩お別れの会 第 9 回臨時正副理事長会議 三重ブロック大会	都ホテル四日市 Zoom 椿大神社 椿会館 大会議室
28 日	地域の価値を高める事業、式典・卒業式、 利他の精神で三重に笑顔をもたらす事業	弁天山公園
【10月】		
2 日	野呂ブロック会長予定者を励ます会	都ホテル四日市
6 日	10 月度理事会	ルーム
7 日	青少年育成会議	四日市市総合会館
10 日	第 73 回全国大会 総会 理事会	佐賀市文化会館
11 日	第 73 回全国大会 フォーラム 式典 卒業式	佐賀市文化会館 SAGA アリーナ
12 日	第 73 回全国大会 閉会式	佐賀市文化会館
16 日	第 11 回正副理事長会議	ルーム
17 日	三重 BC 人材育成における合宿事業	鳥羽商工会議所 かもめホール 3F
18 日	三重 BC 人材育成における合宿事業	錦浦館宴会場 2F
26 日	10 月度例会 青少年育成会議 啓発事業	諏訪新道 ふれあいモール
27 日	じゃがいもクラブ秋季大会	伊勢カントリークラブ
【11月】		
9 日	家庭の日啓発事業	四日市市勤労者・市民交流センター
10 日	11 月度理事会	ルーム

16 日	第 6 回会員会議所会議	美味し国の料理旅館 橘
17 日	令和 7 年度四日市市「男女いきいき働き続けられる 企業」表彰選考委員会	四日市市役所
18 日	第 12 回正副理事長会議	ルーム
23 日	11 月度例会	ルーム
25 日	東海地区協議会 第 3 回会員会議所会議	名古屋東急ホテル
26 日	じゃがいもクラブ 11 月度例会	ローモンドカントリー倶楽部
	四日市中央ライオンズクラブ 講話	都ホテル四日市
28 日	理念共感プロモーターセミナー	ルーム

【12月】

1 日	本次年度合同会員会議所会議	都ホテル
3 日	12LOM の集い	名鉄観光ホテル THE COURTYARD BY MARRIOTT 名古屋
5 日	太鼓チーム大忘年会	大正館
7 日	12 月度例会	都ホテル四日市
12 日	じゃがいもクラブ 12 月度例会	三重カントリー倶楽部
	じゃがいもクラブ忘年会	都ホテル四日市
15 日	12 月度理事会	ルーム
18 日	第 2 回青少年育成基金「サルビア基金」運営委員会	ルーム
19 日	第 13 回正副理事長会議	ルーム
26 日	旧 1 月度理事会	ルーム
28 日	本監査	ルーム
28 日	ルーム大掃除	ルーム

ブランディング委員会

委員長 杉谷 俊輔
副委員長 真弓 裕也

本年度、ブランディング委員会は会員拡大、資質向上の両輪で活動を進めてまいりました。会員拡大は、四日市青年会議所にとって毎年継続して行っていかななくてはならない活動であり、その重要性を会全体で改めて認識し、意識を高め、会員全員で前向きに行っていくと決めました。そして、資質向上についても会員拡大と合わせて取り組んでいくことで、拡大と資質向上の好循環が生まれると信じ、活動に邁進してまいりました。結果として、新規入会者が16名、そして今年度卒業生が6名であり、10名の純増とすることができました。しかし、期首当初に掲げた目標は39名の新規入会者と設定しており、達成率は47%と半数に満たない結果となったことは反省と改善をしなければいけません。

本年度の取り組みとして、まず通年で「個」のブランディングを高め組織で行う拡大活動とテーマを掲げ、全員で会員拡大活動に邁進することを決めました。そして、各会員のモチベーションを維持し、会員同士の相乗効果を図るべく会員拡大会議の開催を設定しました。定期的に新入会員候補者を全体で把握、共有することで候補者と既存会員のつながりを探ると共に、スムーズな入会を進められる環境づくりを行いました。2月度例会では各メンバーが青年会議所活動に主体性をもって取り組むことで会員拡大活動に対しても前向きに実施できるようにすることを目的に開催しました。結果として1月から6月までの半期に8名の新入会員を募ることができました。

また、資質向上に関してJCプログラムスピーチセミナーの開催を3月に実施、3か月ごとに四日市JCプログラムを開催、そして、異業種交流会の開催と、個人の成長を目指した青年会議所ならではの催しを実施し、候補者、研修生、新入会員を中心として資質向上に取り組みました。そして、後半には青年会議所とはどのような団体であり、何をしていて、何ができるのかについて9月度例会を開催しました。この9月度例会が本年度の会員拡大の集大成と考え、候補者を中心に一般の方々をお招きしました。結果、7月から12月までの半期でさらに8名の新入会員を募ることができました。

本年度、新規入会者目標は達成できませんでしたが、本年度入会の会員たちが入会当初からとても献身的に青年会議所活動を行っているのをみて、とても驚かされ、同時に感動するほど嬉しく、頼もしく感じました。そして、その姿を見た委員会メンバーへも相乗効果は生まれ、会員拡大活動や研修生のフォローなどを積極的に行うメンバーが増え、委員会としての結束がより強まったことが何よりも委員長として得られたことです。メンバーに支えられ、この一年間の活動を全うすることができました。委員会メンバーには本当に感謝申し上げます。会員拡大と資質向上は今後も継続していく活動であり、この一年間の経験を活かして、これからも青年会議所活動を邁進していきます。一年間本当にありがとうございました。

スケジュール表

開催日	場所	内容
2024 年 10 月 1 日	若竹	第 1 回委員会 (初顔合わせ)
2024 年 10 月 15 日	ルーム	第 2 回委員会
2024 年 11 月 6 日	ルーム	第 3 回委員会
2024 年 12 月 16 日	ルーム	第 4 回委員会
2025 年 1 月 5 日	ルーム	第 5 回委員会
2025 年 2 月 18 日	ルーム	第 6 回委員会
2025 年 2 月 19 日	四日市市文化会館 第 3 ホール	2 月度例会
2025 年 3 月 10 日	ルーム	第 7 回委員会
2025 年 3 月 12 日	四日市市文化会館 第 3 ホール	JC プログラム スピーチセミナー
2025 年 4 月 8 日	ルーム	第 8 回委員会
2025 年 4 月 15 日	四日市市文化会館 第 3 ホール	異業種交流会
2025 年 5 月 7 日	ルーム	第 9 回委員会
2025 年 6 月 9 日	ルーム	第 10 回委員会
2025 年 7 月 7 日	ルーム	第 11 回委員会
2025 年 8 月 5 日	ルーム	第 12 回委員会
2025 年 9 月 8 日	ルーム	第 13 回委員会
2025 年 9 月 9 日	ルーム	9 月度例会
2025 年 10 月 7 日	ルーム	第 14 回委員会
2025 年 11 月 19 日	ルーム	第 15 回委員会
2025 年 12 月 2 日	サラリーマン割烹栄太郎	忘年会
2025 年 12 月 21 日	ルーム	第 16 回委員会

地域活性化委員会

委員長 秦 美郷
副委員長 有川 朋邦

2025年度、地域活性化委員会の副委員長として、地域がよりよく発展していくために、そして青少年がまちへの帰属意識や誇りを持てるようにという想いを大切にしながら、一年間活動に取り組んでまいりました。

4月の例会では、講師の方から地域の魅力をさまざまな角度から学びました。普段気づかなかった地域の価値を知り、メンバー自身が自分の言葉でまちを伝えることに挑戦するきっかけとなりました。情報発信のノウハウを学ぶことで、まちの面白さや好きなところを共有することが、地域とつながる第一歩になることを実感できたと感じております。また、自分が住むまちの魅力を発掘し地域の活性化につながる情報発信や、自らが住む地域の魅力を発信する楽しさを認識し、発信に意欲を持っていただけたと感じております。

8月の青少年事業では、青少年が地域社会と交流することの大切さや、今後もまちに対して愛着を深める機会の必要性を伝えました。子どもたちが新しい体験に真剣に取り組む姿や、楽しそうに地域の人々と交流する様子を間近で見ることで、まちづくり活動の原点を再認識し、青少年だけでなく地域の方々の心にも前向きな変化が生まれ、また、市外からの参加も多く、四日市の魅力を広く知ってもらう機会にもなり、地域ブランドの向上にもつながったと感じています。

10月のリアルすごろくでは、まち歩きを楽しみながら新しい発見をしていただき、それをSNSで共有するという仕組みを取り入れました。普段通り過ぎてしまうお店に立ち寄り、店主の方の話を聞くことで、「こんな場所があるのだ」とまちへの親しみが深まったという声を多くいただきました。参加者全員が同じタイミングで投稿することでオンライン上にも広がり生まれ、まち全体の一体感を感じることができました。会員にとっても、魅力を伝え、背中を押す側として成長できる機会となり、まちを盛り上げる人としての意識が高まったと感じています。

一年を通して、人と人がつながり、まちへの思いが少しずつ形になっていく姿を間近で見られたことは、私自身にとっても大きな学びでした。こうした積み重ねこそが、青年会議所が目指す「より良い変化」につながっていくのだと実感しています。

地域を知り、人と関わり、自分自身も成長する。この一年で得た経験をこれからの活動につなげ、理事長所信にある「もっと力強い四日市」の実現に向けて、引き続きまちのために取り組んでまいります。一年間、温かく支えていただいた皆さまに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

スケジュール表

開催日	場所	内容
2024 年 10 月 1 日	E-YAN CROSS PORT YOKKAICHI	第 1 回委員会 (初顔合わせ)
2024 年 10 月 31 日	ルーム	第 2 回委員会
2024 年 11 月 25 日	ルーム	第 3 回委員会
2024 年 12 月 12 日	ルーム	第 4 回委員会
2025 年 1 月 17 日	ルーム	第 5 回委員会
2025 年 2 月 10 日	ルーム	小委員会
2025 年 2 月 13 日	ルーム	第 6 回委員会
2025 年 3 月 5 日	ルーム	小委員会
2025 年 3 月 13 日	ルーム	第 7 回委員会
2025 年 3 月 19 日	萩野メタルワークスルーム 株式会社	ZOOM ミーティング
2025 年 4 月 3 日	ルーム	小委員会
2025 年 4 月 10 日	ルーム	第 8 回委員会
2025 年 4 月 14 日	ルーム	小委員会
2025 年 4 月 16 日	ルーム	小委員会
2025 年 4 月 17 日	四日市市文化会館 第 3 ホール	4 月度例会
2025 年 5 月 8 日	ルーム	第 9 回委員会
2025 年 6 月 12 日	四日市市内	小委員会 (8 月度事業諏訪太鼓振興会会議)
2025 年 6 月 12 日	ルーム	第 10 回委員会
2025 年 6 月 23 日	四日市市内	小委員会
2025 年 7 月 10 日	HILLS 四日市本店	第 11 回委員会
2025 年 7 月 11 日	三泗地区各小学校	8 月度事業チラシ配布
2025 年 7 月 15 日	四日市市内	トラック協会打合せ (8 月度事業について)

2025 年 8 月 10 日	ルーム	第 12 回委員会
2025 年 8 月 18 日	三泗地区各小学校	10 月度事業チラシ配布
2025 年 8 月 28 日	ルーム	小委員会
2025 年 8 月 30 日	ルーム	小委員会
2025 年 8 月 31 日	四日市市民公園	8 月度事業
2025 年 9 月 11 日	ルーム	第 13 回委員会
2025 年 10 月 9 日	ルーム	第 14 回委員会
2025 年 10 月 22 日	ルーム	小委員会
2025 年 10 月 26 日	諏訪新道	10 月度例会
2025 年 10 月 30 日	ルーム	10 月度例会 (景品抽選会)
2025 年 11 月 4 日	ろばた比多岐	忘年会
2025 年 11 月 20 日	ルーム	第 15 回委員会
2025 年 12 月 18 日	ルーム	第 16 回委員会

70周年記念委員会

委員長 早川 諒
副委員長 高茂 亮太

本年度、四日市青年会議所は創立70周年を迎えました。70周年記念委員会では、「中今」を生きる我々が諸先輩方の積み上げてこられた歴史を紐解き、地域に必要とされる団体としてまちの新たな可能性と未来を描くことを目的に運動を展開してまいりました。

委員会として最初の例会であった3月度例会では、私自身、理事職が初めてであったこともあり、例会構築において多くの課題がありましたが、副委員長をはじめ委員会メンバーの積極的な提案により、委員会の想いを反映した例会を実施することができました。当日の運営では、各自が自発的に判断し行動したことで大きな支えとなりました。一方で、例会時間の延伸や補正予算の発生などの課題も生じ、改善点として認識する機会となりました。これらの経験は、5月15日の創立70周年記念式典及び祝賀会、さらには8月度例会の成功に向けた自信にもつながりました。

5月15日に開催した創立70周年記念式典、祝賀会は、四日市青年会議所の歩みを支えていただいた皆様へ感謝を伝え、今後の運動への理解と賛同を得ることを目的として開催しました。事前準備から当日の運営に至るまで、委員会を越えた協力体制が構築され、全会員が一丸となった結果、大成功に終えることができました。また、諸先輩方や他LOMから多くの助言や激励をいただき、縦と横のつながりの重要性を再認識する機会となりました。設え等に関する不備については、次年度へ引き継ぐべき課題として整理しました。

8月度例会である70周年記念例会では、地域の文化や産業に触れ、住民及び地域の協力団体と青年会議所メンバーの交流を創出することを目的として事業を開催しました。協力団体の支援と全委員会の連携により、参加目標であった2,000名を達成し、地域に四日市青年会議所の存在意義を示すことができました。猛暑の中での運営は負担も大きかったですが、参加者からは楽しさや交流の意義を実感したとの声が多く寄せられ、事業目的を達成したと認識しています。また、サルビア基金交付事業との合同開催を実現してくださった地域活性化委員会の皆様には、改めて感謝申し上げます。

年間を通じて、委員会メンバーはLOM内外で多くの担いを抱えながらも献身的に準備と運営に取り組みました。委員会で共有した時間は互いの成長につながり、私自身も委員長として学びを得る貴重な経験となりました。また、多くの来訪者や協力者との交流を通じて、青年会議所運動が地域の支えによって成り立っていることを改めて実感しました。

本年度の活動では多くの成果を得ると同時に、運営面の課題も明確になりました。これらは今後の活動の質を高める重要な礎となります。歴史を学び、課題を自分事として捉え、多様な個が力を合わせることで、青年会議所運動を未来へつなぎます。学びと実践を次代へつなぎ、地域の発展に寄与する運動を継続していくことを祈念し、年次報告とします。

スケジュール表

開催日	場所	内容
2024 年 10 月 1 日	大正館	第 1 回委員会 (初顔合わせ)
2024 年 10 月 26 日	ルーム	第 2 回委員会
2024 年 11 月 30 日	ルーム	第 3 回委員会
2024 年 12 月 12 日	ルーム	第 4 回委員会
2025 年 1 月 7 日	ルーム	第 5 回委員会
2025 年 2 月 12 日	ルーム	第 6 回委員会
2025 年 3 月 6 日	ルーム	第 7 回委員会
2025 年 3 月 11 日	四日市市文化会館 第 3 ホール	3 月度例会
2025 年 4 月 8 日	ルーム	第 8 回委員会
2025 年 5 月 13 日	ルーム	第 9 回委員会
2025 年 5 月 15 日	四日市市文化会館 第 1 ホール	5 月度例会 (創立 70 周年記念式典)
2025 年 5 月 15 日	都ホテル四日市 4 階伊勢の間	5 月度事業 (創立 70 周年記念祝賀会)
2025 年 6 月 26 日	ルーム	第 10 回委員会
2025 年 7 月 22 日	ルーム	第 11 回委員会
2025 年 8 月 7 日	ルーム	第 12 回委員会
2025 年 8 月 31 日	四日市市民公園ほか	8 月度例会
2025 年 9 月 24 日	ルーム	第 13 回委員会
2025 年 10 月 28 日	ルーム	第 14 回委員会
2025 年 11 月 20 日	ルーム	第 15 回委員会
2025 年 12 月 11 日	鉄板 bar ブルク	第 16 回委員会 兼 忘年会

渉外委員会

委員長 伊藤 佑輔
副委員長 中野 雄介

一年間、渉外委員会の委員長を務め、改めて強く感じたのは、青年会議所の成長は「場」ではなく「人」によって生まれるということでした。委員会として最初の事業である、賀詞交歓会の準備段階では、経験不足ゆえに判断に迷う場面も多くありましたが、そのたびにメンバーが支えてくれました。時間を割いて相談に乗ってくれる仲間、事業当日に背中を押してくれた先輩方、その一つひとつの関わりの中で、私はようやく委員長として歩み出すことができました。

京都会議では、本年度の日本青年会議所の方向性に触れ、一つの指針を得ました。また、本年度は姉妹締結40周年の節目として雨港国際青年商會と締結式を行いました。この交流を通じて40年積み重ねてきた信頼の深さを改めて実感しました。単なる友好ではなく、互いの成長を願う「パートナー」としての関係性を再認識できたことは大きな学びでした。

ASPACモンゴル大会では国際の舞台で挑戦する仲間の姿を目の当たりにし、JCネットワークの持つ力を実感しました。また、サマーコンファレンスでは全国の志ある青年や多くの著名人によるセミナーや講演を経験し、自らの価値観が広がる瞬間がありました。そして、東海コンファレンスでは、出向者が堂々と役割を果たし、四日市の名を背負って輝く姿に胸が熱くなりました。そしてブロック大会。ここにも三重のステージで挑む出向者たちがおり、その姿は渉外委員会メンバーに大きな刺激を与えてくれました。自分のLOMを離れ、外の舞台で全力を尽くす彼らの姿は、「学びを持ち帰る」という以上に、組織全体の士気を高める力があると実感しました。また、全国大会では、日本青年会議所の一年の成果と卒業式に触れ、JC運動の重みと継承の尊さを強く感じました。卒業生の背中には、次代へ何を残すべきかという問いが込められており、青年会議所活動の意義を改めて見つめ直す時間となりました。振り返れば、渉外委員会が今年本当に生み出した価値は、「参加人数」や「事業数」ではありません。互いの成長を願い、学びを共有し、挑戦を後押しし合える「関係」を築けたことこそが最大の成果でした。車中での何気ない会話、事業後に交わした感想、その小さな積み重ねがメンバー間の信頼を育て、学びをLOM全体へ還元する力を育てました。

そしてもう一つ、大切なことに気づきました。それは、私たちが挑戦できているのは、メンバーの「身近な人たち」の支えがあってこそだということ。家族、職場の仲間、友人その存在なしに青年会議所活動は成立しません。11月度例会でこの思いを形にできたことは、渉外委員会にとって大きな意味を持ちました。

一年を通じて私が学んだのは、「人は人と出会うことで成長し、人は人に支えられることで挑戦できる」という最も本質的な真理でした。渉外委員会は、その「出会いと挑戦」をつくる委員会です。今年得た学びとつながりは、必ず来年度以降の四日市青年会議所を力強く前へ進める礎になると確信しています。一年間、本当にありがとうございました。

スケジュール表

開催日	場所	内容
2024 年 9 月 25 日	ルーム	第 1 回委員会 (初顔合わせ)
2024 年 10 月 31 日	ルーム	第 2 回委員会
2024 年 11 月 29 日	ルーム	第 3 回委員会
2024 年 12 月 13 日	ルーム	第 4 回委員会
2025 年 1 月 10 日	ルーム	第 5 回委員会
2025 年 1 月 13 日	都ホテル四日市 4 階伊勢の間	賀詞交歓会
2025 年 2 月 17 日	ルーム	第 6 回委員会
2025 年 3 月 26 日	ルーム	第 7 回委員会
2025 年 4 月 22 日	ルーム	第 8 回委員会
2025 年 5 月 14 日	四日市市文化会館 第 1 ホール	雨港国際青年商會 調印式
2025 年 5 月 21 日	ルーム 8 階	第 9 回委員会
2025 年 6 月 27 日	ルーム 8 階	第 10 回委員会
2025 年 7 月 28 日	ルーム 8 階	第 11 回委員会
2025 年 8 月 18 日	ルーム 8 階	第 12 回委員会
2025 年 9 月 8 日	ルーム 8 階	第 13 回委員会
2025 年 10 月 28 日	ルーム 8 階	第 14 回委員会
2025 年 11 月 21 日	ルーム 8 階	第 15 回委員会
2025 年 11 月 23 日	都ホテル四日市 3 階鈴鹿の間	11 月度例会
2025 年 12 月 6 日	玄品ふぐ	第 16 回委員会 兼 忘年会

事務局

事務局長 伊藤 公一
財務委員長 中島 和人
事務局次長 加藤 信宏

本年度、事務局は理事長所信に掲げられた「変わったのではない、変えたのだと誇れる未来へ」という言葉を胸に、安心と信頼、そして挑戦を支える運営の要として活動してまいりました。創立70周年という節目の年に、総会運営とデジタル活用、記念誌、卒業式を軸に、四日市青年会議所の一年を縁の下から支えることに努めました。

第125回通常総会では、限られた人数の中で何ができるのか、同時に何をやらないのかを見極めながら、効率的な運営を模索しました。議案作成や当日の運営を通じて、メンバーが自らの役割を理解し、能動的に動き始めたことは大きな成長でした。第一回臨時総会では、多くのメンバーに受付や誘導、設営を担っていただき、組織の一体感を実感しました。第二回臨時総会では、次年度予定者承認に絞った簡素な次第としつつ、新入会員や研修生がセレモニーや司会、設営、運営を体験する機会となりました。席札の伝達事項や議長サポート役の配置などの工夫は、会場の緊張感と進行の安定に寄与しました。

総会を例会として実施する運営については、臨時総会後にアンケートを行い、結果を整理して次年度専務理事予定者へ共有しました。今年の計画を否定するのではなく、次年度以降の在り方を考える材料としてバトンを渡した形です。また、インフォメーションタイムでは、青年会議所全体の課題を共有し、講師を交えてデジタルツールの活用方法を紹介しました。日々の活動の負担や課題感を少しでも軽減し、デジタル技術を自分たちの運動を後押ししてくれる道具として捉えるきっかけになっていれば幸いです。

記念誌の制作では、過去の記念誌を手に取り、先輩たちの歴史に直接触れる貴重な時間を過ごしました。冊子に残された事業や所信から当時の想いが伝わり、自分たちがその連年の上に立っていることを強く意識させられました。同時に、限られた時間の中で原稿や資料整理に向き合ってくれた委員会メンバーの姿は大きな励みでした。70年の歩みを振り返り、これからの力強い青年会議所運動を展開するための指針として記念誌を位置付けるという目的に向けて、一步を刻むことができたと考えています。

一年の締めくくりとなる卒業式では、卒業生が青年会議所活動で得た知識や経験、運動の楽しさを想いとして共有し、在籍会員がそれを受け取ることで、失われていくはずの想いを組織の財産として未来へ引き継ぐことを目指しました。卒業生には次の場に向かう決意を、在籍会員には卒業生の姿勢や言葉から青年会議所運動の可能性を再認識してもらうことを意識して、式典の流れや演出を設計しました。

振り返ると、事務局長として一貫して意識してきたのは、自分一人で抱え込まず、役割と機会を分かち合うことでした。委員会メンバーや他委員会のメンバーに託し、ともに考え悩む時間を重ねることで、事務局全体の力が確実に大きくなっていくのを感じました。本年度の事務局活動を支えてくださった理事メンバー、各委員会、そして四日市青年会議所の全てのメンバーに心より感謝申し上げます。この一年の学びと経験を糧に、変わったのではなく変えたのだと胸を張って言える未来に向けて、これからも歩みを進めてまいります。一年間、本当にありがとうございました。

スケジュール表

開催日	場所	内容
2024 年 10 月 1 日	ルーム	第 1 回委員会 (初顔合わせ)
2024 年 11 月 7 日	ルーム	第 2 回委員会
2024 年 12 月 17 日	ルーム	第 3 回委員会
2025 年 1 月 6 日	ルーム	第 4 回委員会
2025 年 1 月 11 日	ルーム	小委員会
2025 年 1 月 12 日	ルーム	小委員会
2025 年 1 月 13 日	四日市地場産業振興センター	第 125 回 通常総会
2025 年 2 月 12 日	ルーム	第 5 回委員会
2025 年 2 月 19 日	HILLS 四日市本店	2 月度例会サロン担当
2025 年 3 月 13 日	ルーム	第 6 回委員会
2025 年 4 月 14 日	ルーム	第 7 回委員会
2025 年 5 月 7 日	ルーム	第 8 回委員会
2025 年 6 月 5 日	ルーム	第 9 回委員会
2025 年 6 月 8 日	ルーム	小委員会
2025 年 6 月 9 日	ルーム	小委員会
2025 年 6 月 10 日	四日市市文化会館 第 3 ホール	6 月度例会 第一回臨時総会
2025 年 7 月 16 日	ルーム	第 10 回委員会
2025 年 7 月 22 日	ルーム	小委員会
2025 年 7 月 23 日	四日市市文化会館 第 3 ホール	7 月度例会 第二回臨時総会
2025 年 8 月 26 日	ルーム	第 11 回委員会
2025 年 9 月 23 日	ルーム	第 12 回委員会
2025 年 10 月 21 日	ルーム	第 13 回委員会

2025 年 11 月 17 日	ルーム	第 14 回委員会
2025 年 12 月 4 日	ルーム	小委員会
2025 年 12 月 5 日	ルーム	小委員会
2025 年 12 月 6 日	ルーム	小委員会
2025 年 12 月 7 日	都ホテル四日市	12 月度例会 卒業式
2025 年 12 月 21 日	鉄板 bar ブルク	第 15 回委員会 兼 忘年会

太鼓チーム

打頭	中島	和人
統括幹事	後藤	亮太
運営幹事	高茂	亮太
会計幹事	萩野	一真

2025年度の四日市青年会議所太鼓チームは多くの方々の支えによって無事に活動を終えることができました。太鼓チームのメンバーの熱意、チーム外の会員の協力、そして先輩の皆様温かい支援があつてこそ、数々の困難を乗り越えることができました。この一年間は、創立70周年記念祝賀会、大四日市まつり、そして創立70周年記念事業といった節目の事業において、仲間とともに太鼓を通じて地域の皆様に想いを届けることができ、私たちにとってかけがえのない経験となりました。

活動の中では予期せぬトラブルも多く発生しました。しかし互いに手を取り合い、責任を持って課題に向き合うことで、乗り越える力を実感しました。これはまさに青年会議所が掲げる「リーダーシップの開発と成長の機会」であり、「個」の成長が「まち」の力につながると考えます。

本年度をもって、私を含む多くの太鼓チームメンバーが卒業となりますが、まだ在籍するメンバーや、新たに加わったメンバーたちの姿勢や意欲を見る限り、この太鼓チームの未来は明るいと確信しています。これからの太鼓チームが、四日市の諏訪太鼓の文化や青年会議所の伝統を大切にしながら、新たな時代を切り拓いていくことを心から願っております。太鼓を通じた運動は、ただの演奏にとどまらず、地域に希望を響かせ、仲間と共に自己成長を遂げる「運動」であると私は信じています。今後もこの太鼓チームが、より良い変化を創造するJAYCEEの象徴として、多くのメンバーにとっての「学びと成長の場」であり続けることを期待します。

最後に、太鼓チームの活動を支えてくださったすべての皆様に、心より感謝を申し上げます。共に太鼓を響かせ、喜びや困難を分かち合えたことは、私たちにとってかけがえのない財産です。本当にありがとうございました。これからも太鼓チームが、多くの人の想いをつなぐ存在であり続けられるよう、引き続きご支援とご協力を賜りますように、よろしくお願い申し上げます。

スケジュール表

開催日	場所	内容
3 月 27 日	(株)古川電気設備	太鼓を知ってもらう会
4 月 24 日	(株)古川電気設備	練習
5 月 15 日	都ホテル四日市	創立 70 周年記念祝賀会 演奏
5 月 26 日	(株)古川電気設備	練習（中止）
6 月 9 日	楠交流会館	練習
6 月 25 日	楠交流会館	練習
7 月 11 日	楠交流会館	練習
7 月 17 日	楠交流会館	練習
7 月 28 日	楠交流会館	練習
7 月 31 日	(株)LiFFF	大四日市祭り前日飾り付け
8 月 1 日	四日市市内	大四日市まつり訪問演奏
8 月 2 日	四日市市内	大四日市まつり訪問演奏

会計報告

1)収入の部

科目	金額	備考
本会計より	50,000	
合計	50,000	

2)支出の部

科目	金額	備考
企画演出費	50,000	
合計	50,000	

3)余剰金並びに処分

科目	金額	備考
余剰金	0	
合計	0	

野球クラブ

会長 杉本 崇
幹事 九鬼 和大

2025年度は、野球クラブとして活動をするできませんでした。本来は、「桑名交流野球」「7LOM大会」「東海地区大会」についても、日程調整や各LOMとの連絡調整ができず実施に至りませんでした。これは私の調整不足によるものであり、皆様にお詫びを申し上げます。誠に申し訳ありませんでした。野球活動を楽しみにいただいている方々や桑名青年会議所をはじめとする各LOMの方々にも申し訳なく感じております。

「野球」を通じた交流は、普段の委員会や例会とは違ったコミュニケーションを図ることができると考えております。次年度においては、早期からの調整をお願いし、ぜひとも盛んな交流を図ってまいりたいと考えております。1年間ありがとうございました。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

スケジュール表

開催日	場所	内容
本年度活動はありませんでした。		

会計報告

1)収入の部

科目	金額	備考
本会計より	0	
合計	0	

2)支出の部

科目	金額	備考
施設使用料	0	
合計	0	

3)余剰金並びに処分

科目	金額	備考
	0	
合計	0	

じゃがいもクラブ

現役幹事長 杉谷 俊輔

2024年度に引き続き、じゃがいもクラブ幹事長の役職を指名していただき、本年度現役幹事長職をお預かりすることとなりました。昨年度に得た経験を活かし、本年度もじゃがいもクラブの発展、シニアクラブの諸先輩方との交流についてより一層取り組みました。

2025年度もシニアクラブの先輩がじゃがいも会長職を務め、私自身がシニアと現役の架け橋となり、じゃがいもクラブ以外の活動についても交流を通じて会員それぞれが青年会議所活動に対して、前向きに取り組むことができる環境を整えたいと思い、活動を邁進してまいりました。自分がこれまで経験したことから、このじゃがいもクラブで何を伝えられるのかを真剣に考え、じゃがいもクラブでは、ただゴルフを楽しむだけでなく、プレーや食事を通じてシニア会員の諸先輩方と現役会員の交流を深める場として、多くの参加者を募り、情報交換や親睦を深めることを目標にしました。

多くの現役幹事はこれまでじゃがいもクラブにあまり参加していないメンバーでしたが、本年度を通じて、ゴルフが好きになり、先輩との交流の中で多くの学びを得ていただけるよう願っていました。また、じゃがいもクラブに参加していなかった幹事だからこそ、新たな現役メンバーを誘いやすい雰囲気を作り、同好会活動を活性化したいと考え、新たな一年が始まりました。

実際に活動が始まると、設営面では幹事団の協力もあり、スムーズに進めることができましたが、動員面では非常に苦労しました。時間を空けることが難しい方や、今まで参加したことがないため一步を踏み出せない方もいました。しかし、初めて参加した現役会員からは「非常に楽しいゴルフだった」「先輩からゴルフだけでなくJCについても教えてもらった」など、多くの良い意見をいただきました。じゃがいもクラブで知り合った先輩方とプライベートで交流が始まったメンバーもあり、これこそがじゃがいもクラブの良さだと改めて実感することができました。

そして、12月度例会の忘年会では、今年一年のつながりを受けて、40名を超える先輩方と現役会員が集まり、盛大に締めくくることができました。同好会活動は、普段あまり話す機会がない先輩方と現役会員が交流を持てる貴重な機会です。この機会を最大限に活用し、つながりを広げていくことが同好会の存在意義だと感じています。ゴルフという手段を通じて、会員拡大や会員交流など、多くの成果を生み出すことができます。2026年度以降もじゃがいもクラブの活動を通じて、シニアの諸先輩方と現役会員がさらに良い交流と関係を築き、青年会議所運動の発展につながることを願っています。

スケジュール表

開催日	場所	内容
2月5日	酒亭 いっぺい	幹事会
3月25日	タートルエースゴルフ倶楽部	3月度じゃがいも例会
3月25日	大正館	大懇親会
4月23日	グレイスヒルズカントリー倶楽部	4月度じゃがいも例会
5月19日	ノーブルウッドゴルフクラブ	日本JCじゃがいもクラブ 2025年度 第48回中日本地区大会
5月23日	名四カントリークラブ	5月度じゃがいも例会
6月17日	桑名カントリー倶楽部	じゃがいもクラブ6月度例会 JCI 桑名・JCI 四日市対抗戦
7月27日	鈴峰ゴルフ倶楽部	7月度じゃがいも例会
9月19日	ゴルフ5カントリー四日市コース	9月度じゃがいも例会
9月22日	六甲国際ゴルフ倶楽部	2025年度第76回日本JCじゃがいもクラブ 全日本選手権大会
10月27日	伊勢カントリークラブ	三重ブロック協議会 じゃがいもクラブ秋季大会
11月26日	ローモンドカントリー倶楽部	11月度じゃがいも例会
12月12日	三重カンツリークラブ	12月度じゃがいも例会
12月12日	都ホテル 四日市	大忘年会

会計報告

1)収入の部

科目	金額	備考
本会計より	20,000	
合計	20,000	

2)支出の部

科目	金額	備考
日本JCじゃがいも	20,000	
合計	20,000	

3)余剰金並びに処分

科目	金額	備考
余剰金	0	
合計	0	

公益社団法人日本青年会議所 派遣報告

国際グループ 持続可能な国際開発委員会

副委員長 稲垣 雄介

小幹事 野呂 京志

委員 田中 俊太郎

委員 森 友樹

本年度、国際グループ 持続可能な国際開発委員会に4名で出向させていただきました。日本青年会議所への出向は、東海地区や三重ブロックと異なり、いわゆる出向人数のノルマがなく、基本的には自由意志に基づくものであり、さらに言えば、LOMに一人辺り2万円という金銭的負担も強いものです。そのような中、70周年という節目の年にも関わらず今回の出向をご承認いただきました仲野理事長には、改めまして感謝申し上げます。

今回は副委員長（VC）視点で、3つの観点から報告します。

1点目は事業報告です。我々はSMILE by WATERという2016年度から続く日本JCの国際支援事業を担う形で、カンボジアのシェムリアップ州にてJCIシェムリアップとともに、浄水器を設置する事業を実施しました。さらには地域の経済的発展のために雇用創出を伴うホテイアオイ製品作りの指導、そして、地域開発運動が持続可能になるよう現地に募金箱を設置する取り組みも行いました。累計5回の現地渡航に加え、数え切れないほどのWEB会議やWhatsApp（LINEのようなもの）を使った海外とのコミュニケーションは、姉妹LOM交流とはまた違った新たな気付きと刺激を与えてくれる機会となりました。結果として、現地に安全安心な水の提供を果たすことができ、JCIシェムリアップとの友好関係の確立やカンボジアにおける日本のプレゼンス向上にも貢献できました。

2点目は議案に関する報告です。日本青年会議所の議案上程は非常に過密なスケジュールで行われ、意見をもらった翌日に上程するような時もあり、LOMでさまざまな役職を担わせていただいた立場であっても、苦勞することが多々ありました。しかしながら、LOMで鍛えていただいたおかげで、議案に関しては4人のVCの中でも一番であったと自負しております。「四日市で頑張れば日本でも通用する」。この先輩方々の格言は間違っていないと私自身も申し上げたいと思います。四日市の質の高さを今後も担保していくことも重要であると実感する一年となりました。

3点目は毎月の全体委員会やASPAC、世界会議での活動です。スタッフ輩出場所を中心に全国各地を回って、毎月の委員会に参加しておりました。日本出向の醍醐味の一つは、この毎月の委員会に参加し、全国各地の仲間との絆を育み、その交流や体験を通して新たな気付きを得られることです。伊豆大島や北茨城、中国の広州など、今回の出向でしか訪れないような地域での経験は、人生に彩りを与える機会となりました。三重ブロック内から出向いただいた桑名、鈴鹿、松阪からの委員メンバー6名にも、カンボジア渡航を含めて大いに助けていただき、三重の力を示すことができました。また、世界の大会でも裏方の立場が見える、貴重な経験ができました。

A4一枚では書き切れないほど、濃密で有益で忘れられない一年でした。今後も多くのメンバーが日本JCへ多数出向いただくことを祈念して、派遣報告とさせていただきます。

東海地区協議会 派遣報告

組織連携推進委員会
委員長 長尾 計享
総括幹事 後藤 亮太
委員 西田 真之
委員 森山 陽介

本年度、公益社団法人日本青年会議所東海地区協議会の組織連携推進委員会へ出向させていただきました、誠にありがとうございました。このような東海地区役員としての担いをいただき、各地青年会議所と関わる貴重な機会を我々に与えていただきました仲野理事長をはじめ、四日市青年会議所メンバーの皆様には、心より感謝申し上げます。

我々の委員会は、東海地区協議会として総合連絡調整機関であることを明確にし、これまで十分にできていなかったことを本質的に実行するという命題のもと、1年間運動を展開してまいりました。事業としては、各ブロック協議会と日本青年会議所をつなぐ総合連絡調整窓口として、LOMの運動を最大化するための各種調整に取り組んでまいりました。その中で、各ブロック協議会の考え方や運営方法の違いに触れ、これまで知ることのできなかった知識を得る大きな機会となりました。また、各地青年会議所に所属する中間層メンバーを対象に、東海地区内で全12回にわたりJCプログラムを開催し、JAYCEEとしての知識や考え方を深める機会を提供することができました。参加者からは大変高い満足度をいただき、このような機会を今後も継続的に提供していく必要性を強く感じております。さらに、地域の障害者雇用に取り組む企業を紹介する多彩な人財が活躍する企業の調査研究事業、U-11JCカップ東海地区予選大会の運営、ASPAC JAPANナイトブースの出展など、多種多様な事業も行い、東海地区のみならず国際の機会にも携わることができました。これらの活動を通じて、東海地区内の会員会議所や地域企業・団体とのつながりを強化し、東海地区協議会の根幹である総合連絡調整機関としての役割を果たすことができたと感じています。

昨年に引き続き東海地区協議会に出向させていただきましたが、今年は昨年以上に多くの学びと気づきがあり、得られたものは計り知れないものとなりました。これまで長年LOMにて役職を担わせていただきましたが、地区役員として活動することで、LOMだけでは得られない視点や経験が数多くあることを改めて強く実感いたしました。さまざまな会員との交流や情報交換によって得た知識と経験を四日市青年会議所に持ち帰り、共有し、次代へとつないでいくことが、今後の私の使命であると考えております。

最後になりますが、この1年間支えてくださった出向メンバー、そして温かく見守っていただいた四日市青年会議所メンバーの皆様には、改めて深く感謝申し上げます、出向者報告とさせていただきます。1年間、本当にありがとうございました。

東海地区協議会 派遣報告

東海コンファレンス2025委員会
委員 萩 広光

本年度、日本青年会議所東海地区協議会東海コンファレンス2025委員会へ出向させていただき、四日市青年会議所の皆様には多大なるご支援を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

本年度の東海コンファレンス2025は、愛知県半田市のアイプラザ半田にて開催いたしました。夏の暑さが残る時期であったため、参加者の皆様はもとより、一般市民の方々の体調にも十分配慮しながら運営を進めました。

半田市で人気のあるできたてグルメやスイーツを提供する14店舗のキッチンカーにご協力いただき、地域ならではの味覚を楽しんでいただける企画を準備していました。しかし、当日になって1店舗が急遽出展辞退となり、対応に苦慮する場面もありました。また、開催直後はキッチンカーや野外体験ブースへの来場が伸び悩みましたが、防災フォーラム終了後のお昼時から徐々に賑わいが見られるようになりました。

近隣の交通手段などの影響も考えられる中、一般市民の皆様を巻き込んだ企画運営は予想外の展開も多く、貴重な学びとなりました。

結果として、各地LOM会員500名、一般市民300名と、多くの皆様にご来場いただき、設営にもご協力いただいたことで、大変楽しく有意義な時間を共有することができました。また各地青年会議所会員が共に運動を発信し、東海地区の未来へとつなげる素晴らしい機会になったと感じております。

このようにさまざまな経験と学びを得られたのも、LOMの皆様のご支援あつてのことと深く感謝しております。出向の機会は自身の決断で掴み、自身の成長へとつなげるものだと実感いたしました。今後も機会があれば、積極的に挑戦していきたいと思います。1年間、本当にありがとうございました。

三重ブロック協議会 派遣報告

次世代ビジョン拡大委員会

委員長 橋本 友彦

委員 後藤 亮太

委員 杉本 崇

委員 藤井 浩太

本年度は公益社団法人日本青年会議所東海地区三重ブロック協議会次世代ビジョン拡大委員会の委員長を仰せつかり1年間活動してまいりました。まずは出向させていただきました仲野理事長には学びの機会をいただき本当にありがとうございました。

本年度三重ブロックでは挑戦をテーマに1年間邁進してまいりました。例年アカデミー生を対象とした事業を行っていましたが三重ブロック協議会森下巧麻会長の意向で三重ブロック全員を対象にした事業を4月にスポーツ大会を開催しました。LOMの垣根を越えた友情を育むことができ9月には利他の精神で三重に笑顔あふれる事業を行いました。さらに、10月にはリーダー育成を目的とした人財育成合宿事業を行い三重ブロックのメンバー一人ひとりがJC活動や社業に活かせるようにと想いを込めた事業となりました。

三重ブロックでの活動はLOMが違うメンバーが集まり事業を行わなくてはなりません。また委員会を行う際は四日市だけで開催するのではなく三重県下11LOMの場所で行い本年度は三重県の魅力を改めて知ることができました。

今回委員長として出向させていただきました本当に多くの学びを得ることができました。

そのなかで一番の学びは「人」です。

多くの方と出会い支えられ助けられました。1年間頑張れたのも委員会のメンバーやブロックの役員そして三重県下11LOMの理事長に支えられました。

あらためて青年会議所の活動で大事なものは、「人」なんだと痛感した一年でした。

LOMでは味わえない出会いや学びは出向すると経験できます。

この経験は私の人生で一番濃い経験になりました。あらためて出向して本当によかったと思います。

多くの挫折や喜び、感謝があふれるそんな年となったことに本当にありがとうございました。1年間支えていただいた方に改めて感謝を申し上げます。

三重ブロック協議会 派遣報告

ビッグチャレンジ推進委員会
委員 九鬼 和大

今年度、公益社団法人日本青年会議所東海地区三重ブロック協議会の要となる三重ブロック大会と卒業式典の委員会であるビッグチャレンジ推進委員会に出向させていただきました。

入会して2度目となる出向であり、例年のブロック大会と卒業式典に加えて、今年度は三重ブロック大会の広報事業として新たにチャレンジしたことが貴重な経験をさせていただきました。三重ブロック大会の目的と想いを広く地域の皆様に周知させる広報事業は試行錯誤の日々でしたが、委員会メンバーの皆がどうすればたくさん参加してもらえるか話し合い、互いの意見を出し合って構築した事業は大きな影響と学びとなりました。

また、ブロック大会に向けての準備に関してはさまざまな困難を解決しながら、式典と地域事業を同時開催する異例の運営の中でも、メンバーが一丸となってそれぞれの役割に徹して、複雑なスケジュールの中ではあったが、大きなトラブルもなく開催できたことは委員メンバーとの深い絆を築けて、私にとって大きな財産となりました。

出向でしか知ることができない貴重な経験があるということは、今後出向を悩んでいるメンバーに経験者として伝えてまいります。一年間、ありがとうございました。

三重ブロック協議会 派遣報告

事務局
委員 清水 一輝

本年度、2017 年の入会依頼を契機として、初めて三重ブロック協議会の事務局へ出向する貴重な機会を頂戴いたしました。事務局員として、県内各地に赴き、役員会議ならびに会員会議所会議の設営、運営に携わる中で、ブロック協議会の諸事業や意思決定の場が、事務局の地道で継続的な支えによって成り立っていることを、身をもって実感する一年となりました。表舞台に立つことは多くありませんが、円滑な会議運営や事業遂行のために細部まで目を配り、準備を重ねる事務局の役割は、まさにブロック協議会の基盤そのものであり、その一端を担わせていただけたことは、私にとって大きな学びであり誇りでもあります。

これまで9年間の JC 生活を通じて、多くの同志と出会い、さまざまなつながりを築いてまいりましたが、事務局員として一年間を共に過ごすことで、その関係性は単なる交流にとどまらず、互いに支え合い、高め合う、より深く確かな絆へと昇華したように感じております。共に汗をかき、同じ時間と目的を共有した仲間との出会いに、心より感謝申し上げます。

今回の出向を通じて得た経験と人とのつながりは、今後の JC 活動のみならず、自身の人生においても大きな財産となりました。今後も、出向の機会を頂けるのであれば、与えられた役割に真摯に向き合い、組織の発展に寄与できるよう、積極的に参加していきたいと強く感じております。

例会出席率

執 行 部				
理事長	仲野 仁裕	100	%	99%
副理事長	田中俊太朗	100	%	
副理事長	西田 真之	100	%	
副理事長	森山 陽介	100	%	
副理事長	清水 一輝	100	%	
専務理事	蛭波 敬	100	%	
監事	野呂 京志	100	%	
監事	後藤 亮太	92	%	
ブ ラ ン デ ィ ン グ 委 員 会				
委員長	杉谷 俊輔	100	%	89%
副委員長	真弓 裕也	退会		
	杉本 崇	83	%	
	森 友樹	83	%	
地 域 活 性 化 委 員 会				
委員長	秦 美郷	休会		88%
副委員長	有川 朋邦	92	%	
	藤井 浩太	83	%	
	チャン ティエン シン フイ	92	%	
	萩野 一真	75	%	
	堀井 真広	100	%	
7 0 周 年 記 念 委 員 会				
委員長	早川 諒	92	%	76%
副委員長	高茂 亮太	100	%	
	稲垣 雄介	100	%	
	九鬼 和大	75	%	
	辻 裕登	55	%	
	木田 智晴	36	%	
渉 外 委 員 会				

委員長	伊藤 佑輔	100	%	92%
副委員長	中野 雄介	100	%	
	長尾 計享	100	%	
	萩 広光	58	%	
	橋本 友彦	100	%	
事務局				
事務局長	伊藤 公一	100	%	80%
財務委員長	中島 和人	92	%	
事務局次長	加藤 信宏	100	%	
	藤谷 竜大	58	%	
	海老名大樹	50	%	
	木村 卓也	退会		

新入会員				
	石井 貴久(4月承認)	88	%	
	重田 真菜(5月承認)	63	%	
	樋口 佑菜(5月承認)	88	%	
	若林 正幸(5月承認)	100	%	
	戸板 駿介(5月承認)	38	%	
	堀木 亮汰(7月承認)	83	%	
	伊藤 将希(8月承認)	40	%	
	矢野 貴大(8月承認)	100	%	
	生柳 久達(12月承認)	0	%	
	門脇 大樹(12月承認)	0	%	
	後藤 竜也(12月承認)	0	%	
	東 拓巳(12月承認)	0	%	
	樋口 真美(12月承認)	0	%	
	溝渕 友子(12月承認)	0	%	
	矢田 栄里華(12月承認)	0	%	

2025年度 財産目録

2025年12月31日現在

	本会計	青少年育成 基金会計	基金特別 会計	四日市 J C シニアクラブ会計	四日市 J Cシニアクラブ 慶弔会計	J C会館建設 基金会計	70周年準備金 会計	合計
I 資産の部								
1. 流動資産								
①現金預金								
普通預金 北伊勢上野信用金庫 本店 口座番号 1051031	1,160,350							1,160,350
普通預金 三菱東京UFJ銀行 四日市支店 口座番号 1197006	13,339							13,339
決済性預金 北伊勢上野信用金庫 本店 口座番号 1271439				36,035,382				36,035,382
決済性預金 北伊勢上野信用金庫 本店 口座番号 1072677		11,630,015						11,630,015
決済性預金 北伊勢上野信用金庫 本店 口座番号 1271413			0					0
決済性預金 北伊勢上野信用金庫 本店 口座番号 1271421						732,013		732,013
普通預金 北伊勢上野信用金庫 本店 口座番号 1352619					181,158			181,158
決済性預金 北伊勢上野信用金庫 本店 口座番号 1400389							264,708	264,708
②現金								
流動資産合計	1,173,689	11,630,015	0	36,035,382	181,158	732,013	264,708	50,016,965
2. 固定資産								
①現金預金								0
固定資産合計	0	0	0	0	0	0	0	0
資 産 合 計	1,173,689	11,630,015	0	36,035,382	181,158	732,013	264,708	50,016,965
II 負債の部								
負 債 合 計	0	0	0	0	0	0	0	0
正 味 財 産	1,173,689	11,630,015	0	36,035,382	181,158	732,013	264,708	50,016,965

2025年度貸借対照表総括表

2025年12月31日現在

	本会計	青少年育成 基金会計	基金特別 会計	四日市 J C シニアクラブ会計	四日市 J Cシニアクラブ 慶弔会計	JC会館建設 基金会計	70周年準備金 会計	合計
I 資産の部								
1. 流動資産								
現金預金	1,173,689	11,630,015	0	36,035,382	181,158	732,013	264,708	50,016,965
流動資産合計	1,173,689	11,630,015	0	36,035,382	181,158	732,013	264,708	50,016,965
2. 固定資産								
定期預金	0							0
現金預金								0
固定資産合計	0	0	0	0	0	0	0	0
II 負債の部								
負債合計	0	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産の部								
1. 一般正味財産	1,173,689	11,630,015	0	36,035,382	181,158	732,013	264,708	50,016,965
正味財産合計	1,173,689	11,630,015	0	36,035,382	181,158	732,013	264,708	50,016,965
負債及び正味財産合計	1,173,689	11,630,015	0	36,035,382	181,158	732,013	264,708	50,016,965

2025年度正味財産増減計算書総括表

自 2025年 1月 1日
至 2025年12月31日

	本会計	青少年育成 基金会計	基金特別 会計	四日市JC シニアクラブ	四日市JCシ ニア会費	ニ シニア会費	70周年準備金 会計	内部取引消去	合計
I 一般正味財産増減の部									
1.経常増減の部									
(1)経常収益									
①受取入金									
受取入金	420,000								420,000
②受取会費									
受取正会員会費	4,200,000								4,200,000
受取賛助会員会費	80,000								80,000
受取新入会員会費	810,000								810,000
受取シニアクラブ会員会費				840,000					840,000
③事業収益									
事業収益									
委員会事業収益									
④受取寄付金									
受取寄付金	80,000	508,418							588,418
⑤受取負担金									
受取負担金									
⑥雑収益									
受取利息収益	3,874	253			257		100		4,484
その他雑収益	1,130				22,770				23,900
⑦貯蔵品分配収入									
⑧他会計からの繰入金									
本会計より繰入				9,148			200,000		209,148
基金特別会計より繰入							544,821		544,821
JC会館建設基金より繰入							314,179		314,179
経常収益計	5,555,004	508,671	0	849,148	23,027	0	1,059,100	0	7,992,950
(2)経常費用									
①事業費									
事業費	1,257,485	1,074,514					1,094,392		3,426,371
②管理費									
会議費	79,800			12,100					91,900
給与手当	440,652								440,652
通信・雑送費	214,106			191,331					405,437
消耗品費	245,796								245,796
印紙製本費				670,800					670,800
水道光熱費	353,184								353,184
賃借料	1,584,000								1,584,000
インフォメーション関係費	247,280								247,280
渉外費	170,000				51,250				221,250
雑費	82,838			550					83,388
③支払負担金									
支払負担金	853,130								853,130
その他の支出	339,225								339,225
④他会計への繰入金支出									
青少年育成基金会計へ繰入									
シニア会員慶弔用へ繰入	9,148								9,148
70周年準備金会計へ繰入	200,000		544,821			314,179			1,059,000
経常費用計	8,076,824	1,074,514	544,821	874,781	51,250	314,179	1,094,392	0	10,030,561
当期経常増減額	-521,820	-567,843	-544,821	-25,633	-28,223	-314,179	-35,292	0	-2,037,611
当期一般正味財産増減額	-521,820	-567,843	-544,821	-25,633	-28,223	-314,179	-35,292	0	-2,037,611
一般正味財産期首残高	1,895,309	12,197,858	544,821	38,061,015	209,381	1,046,192	300,000	0	52,054,576
一般正味財産期末残高	1,173,889	11,630,015	0	38,035,382	181,158	732,013	264,708	0	50,016,985
II 正味財産期末残高	1,173,889	11,630,015	0	38,035,382	181,158	732,013	264,708	0	50,016,985

2025年度収支計算書総括表

自 2025年 1月 1日
至 2025年12月31日

	本会計	青少年育成 基金会計	基金特別 会計	シニアクラブ 会員会計	シニアクラブ 会員 慶弔会計	JC会館建設 基金会計	70周年 準備金	内部取引消去	合計
I 事業活動収支の部									
1. 事業活動収入									
① 入会金収入									
入会金収入	420,000								420,000
② 会費収入									0
正会員会費収入	4,200,000								4,200,000
賛助会員会費収入	80,000								80,000
新入会員会費収入	810,000								810,000
シニア会員会費収入				840,000					840,000
③ 事業収入									0
事業収入									0
委員会事業会計収入									0
④ 寄付金収入									0
寄付金収入	80,000	508,418							588,418
⑤ 負担金収入									0
負担金収入									0
⑥ 雑収入									0
受取利息	3,874	253			257		100		4,484
その他雑収入	1,130				22,770				23,900
⑦ 貯蔵品分配収入									0
⑧ 他会計からの繰入金収入									0
本会計より繰入				9,148					9,148
基金特別会計より繰入							544,821		544,821
JC会館建設基金より繰入							314,179		314,179
事業活動収入計	5,555,004	508,671	0	849,148	23,027	0	859,100	0	7,792,950
2. 事業活動支出									
① 事業費支出									
事業費支出	1,257,465	1,074,514					1,094,392		3,426,371
② 管理費支出									
会議費支出	79,800			12,100					91,900
給与手当支出	440,652								440,652
通信・発送費支出	214,106			191,331					405,437
消耗品費支出									
事務消耗品費支出	203,028								203,028
備品費支出	42,768								42,768
印刷製本費支出									
基本資料作成費支出				670,800					670,800
報告書作成費支出									0
水道光熱費支出	353,184								353,184
賃借料支出	1,584,000								1,584,000
前払賃借料支出									
インフォメーション関係費支出	247,280								247,280
渉外費支出									
慶弔費支出	104,000				51,250				155,250
渉外費支出	18,000								18,000
国際渉外費支出	50,000								50,000
貯蔵品購入支出									
貯蔵品購入支出									
雑支出									
同好会費支出	68,950								68,950
雑支出	13,888			550					14,438
③ 負担金支出									
負担金支出	853,130								853,130
その他支出	339,225								339,225
④ 他会計への繰入金支出									
特別会員会計へ繰入	9,148								9,148
70周年準備金会計へ繰入			544,821			314,179			859,000
事業活動支出計	5,876,624	1,074,514	544,821	874,781	51,250	314,179	1,094,392	0	8,830,561
事業活動収支差額	-321,620	-567,843	-544,821	-25,633	-28,223	-314,179	-235,292	0	-2,037,611
II 投資活動収支の部									
1. 投資活動収入									
70周年準備金積立							200,000		
投資活動収入計	0	0	0	0	0	0	200,000	0	200,000
2. 投資活動支出									
70周年準備金積立	200,000								
投資活動支出計	200,000	0	0	0	0	0	0	0	200,000
投資活動収支差額	-200,000	0	0	0	0	0	200,000	0	0
III 財務活動収支の部									
1. 財務活動収入									
財務活動収入計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2. 財務活動支出									
財務活動支出計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
IV 予備費支出の部									
当期収支差額	-521,620	-567,843	-544,821	-25,633	-28,223	-314,179	-35,292	0	-2,037,611
前期繰越収支差額	1,695,309	12,197,858	544,821	36,061,015	209,381	1,046,192	300,000	0	52,054,578
次期繰越収支差額	1,173,689	11,630,015	0	36,035,382	181,158	732,013	264,708	0	50,016,965

2025年度収支計算書

自 2025年 1月 1日
至 2025年12月31日

	予算	決算	差異	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①入会金収入				
入会金収入	120,000	420,000	300,000	
②会費収入				
正会員会費収入	4,200,000	4,200,000	0	
賛助会員会費収入	60,000	60,000	0	
新入会員会費収入	240,000	810,000	570,000	
シニア会員会費収入	840,000	840,000	0	
登録料収入	0	0	0	
③事業収入				
事業収入	0	0	0	
委員会事業会計収入	0	0	0	
④寄付金収入				
寄付金収入（サルビア）	580,000	506,418	-73,582	サルビア積立活動+一括預かり残金
寄付金収入（卒業生寄付）		60,000	60,000	卒業生寄付
⑤負担金収入				
負担金収入	0	0	0	
⑥雑収入				
受取利息	2,000	4,484	2,484	
その他雑収入1	0	9,148	9,148	特別会員会計へ
その他雑収入2	0	23,900	23,900	シニアクラブ会員慶弔会計へ
⑦貯蔵品分配収入				
⑧他会計からの繰入金収入				
周年準備金会計より繰入	1,725,000	0	-1,725,000	70周年記念事業費へ
基金特別会計より繰入	0	544,821	544,821	周年準備金会計へ
JC会館建設基金より繰入	0	314,179	314,179	周年準備金会計へ
⑨前期委員会事業費より繰入				
事業活動収入計	7,767,000	7,792,950	25,950	

2. 事業活動支出				
①事業費支出				
事業費支出	3,599,000	3,426,371	-172,629	※1支出明細書1
②管理費支出				
会議費支出	85,900	79,800	-6,100	※2支出明細書1
会議費支出（シニアクラブ分）	0	12,100	12,100	
給与手当支出	530,000	440,652	-89,348	
通信・発送費支出	210,000	214,106	4,106	
通信・発送費支出（シニアクラブ分）	200,000	191,331	-8,669	
消耗品費支出				
事務消耗品費支出	60,000	203,028	143,028	
備品費支出	30,000	42,768	12,768	
印刷製本費支出				
基本資料作成費支出				
基本資料作成費支出（シニアクラブ分）	670,800	670,800	0	
報告書作成費支出				
報告書作成費支出（シニアクラブ分）	100,000	0	-100,000	
水道光熱費支出	48,000	353,184	305,184	
賃借料支出				
賃借料支出	1,584,000	1,584,000	0	
インフォメーション関係費支出	353,380	247,280	-106,100	
渉外費支出				
慶弔費支出	70,000	104,000	34,000	
慶弔費支出(シニアクラブ会員分)	0	51,250	51,250	
渉外費	50,000	16,000	-34,000	
国際渉外費支出	150,000	50,000	-100,000	
貯蔵品購入支出				
貯蔵品購入支出	0	0	0	
雑支出				
同好会費支出	90,000	68,950	-21,050	※3支出明細書1
雑支出	70,000	13,888	-56,112	
雑支出(シニアクラブ会員分)	0	550	550	
③負担金支出				
負担金支出	956,450	853,130	-103,320	※4支出明細書1
負担金支出（JCシニアクラブ会員分）	0	0	0	
その他支出	538,410	339,225	-199,185	※5支出明細書1
④他会計への繰入金支出				
本会計から繰入	0	9,148	9,148	特別会員会計へ
周年準備金会計へ繰入	0	859,000	859,000	
⑤予備費	0	0	0	
事業活動支出計	9,395,940	9,830,561	434,621	
事業活動収支差額	-1,628,940	-2,037,611	-408,671	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
投資活動収入計	200,000	200,000	0	
2. 投資活動支出				
70周年事業積立	200,000	200,000	0	
投資活動支出計	200,000	200,000		
投資活動収支差額	0	0	0	
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
IV 予備費支出の部				
当期収支差額	-1,628,940	-2,037,611	-408,671	
前期繰越収支差額	52,054,576	52,054,576	0	
次期繰越収支差額	50,425,636	50,016,965	-408,671	

※1【事業費支出明細書】

科目	①予算	②総事業費	③本会計負担金	④差異(③-①)	登録料等収入
ブランディング委員会	171,000	127,800	127,800	-43,200	0
地域活性化委員会	347,000	323,880	323,880	-23,120	0
サルビア基金交付事業	510,000	1,074,514	0	-510,000	0
70周年記念委員会	30,000	15,620	15,620	-14,380	0
70周年記念委員会(70周年準備金)	1,275,000	788,227	0	-1,275,000	0
渉外委員会	576,000	566,215	566,215	-9,785	0
事務局	240,000	223,950	223,950	-16,050	0
事務局(70周年準備金)	450,000	306,165	0	-450,000	0
合計	3,589,000	3,426,371	1,257,465	-2,341,535	0

※2【会合費支出明細書】

科目	予算	決算	差異	備考
総会会場費	85,900	79,800	-6,100	
総会会場費(JCシニアクラブ会員分)	0	12,100	12,100	
理事会会場費	0	0	0	
合計	85,900	91,900	6,000	

※3【同好会費支出明細書】

科目	予算	決算	差異	備考
太鼓チーム	50,000	48,950	-1,050	
野球クラブ	20,000	0	-20,000	
じゃがいもクラブ	20,000	20,000	0	
合計	90,000	68,950	-21,050	

※4【負担金支出明細書】

科目	予算	決算	差異	備考
日本JC会費	205,000	205,000	0	5000円×35名 基本会費額30000円
日本JC新入会員会費	195,000	30,000	-165,000	新入会員5000円×5名+2500円×2名
JCI会費	75,075	90,090	15,015	2145円×35+7名
国際協力資金	63,875	76,650	12,775	1825円×35+7名
未来の青年会議所を創る協力金	52,500	61,500	9,000	1500円×(35+5)名+750円×2名
京都議会議費	8,000	8,000	0	
東海地区協議会費	87,500	100,000	12,500	2500円×35人 追加分2500円×5
三重ブロック協議会会費	122,500	140,000	17,500	3500円×35人 追加分3500円×5
三重ブロック会員大会負担金	70,000	70,000	0	
商工会議所会費	14,000	14,000	0	
海洋少年団育成費	50,000	50,000	0	
四日市市青少年育成市民会議会費	2,000	2,000	0	
大四日市まつり協賛金	5,000	0	-5,000	
社会福祉協議会会費	6,000	5,890	-110	
四日市ハーフマラソン協賛金【JCシニアクラブ会員分】	0	0	0	
合計	956,450	853,130	-103,320	

※5【その他支出明細書】

科目	予算	決算	差異	備考
JCIピンバッジ	117,000	27,990	-89,010	
ネームプレート	104,910	42,020	-62,890	
WE BELIEVE	111,000	57,500	-53,500	3000円×38名 追加5名
記念品	49,500	51,403	1,903	卒業記念品6個 皆出席記念品15名
職員健康診断	0	0	0	
労働保険料	0	3,812	3,812	
日本JC出向LOM負担金	80,000	80,000	0	20000円×4
登記費用	51,000	51,500	500	
法市民税	25,000	25,000	0	
公開討論会 払戻金	0	9,148	9,148	シニア会費へ返金 その概支出とは分けて収支を行う
合計	538,410	348,373	-190,037	

【事務関係費明細書】

科目	予算	決算	差異	備考
給与	530,000	440,852	-89,348	2024年12月分から計算
通信・発送費	210,000	214,108	4,108	基本資料発送費・CTY・ZOOM使用料・年賀状込み
通信・発送費（シニアクラブ分）	200,000	191,331	-8,669	
事務室賃借料	1,584,000	1,584,000	0	
事務室水道光熱費	48,000	353,184	305,184	賃貸料に含まれなくなった
事務消耗品費	80,000	203,028	143,028	
基本資料作成費	0	0	0	
基本資料作成費（シニアクラブ分）	870,800	870,800	0	
報告書作成費	0	0	0	
報告書作成費（シニアクラブ分）	100,000	0	-100,000	
インフォメーション関係費	353,380	247,280	-106,100	
備品費	30,000	42,788	12,788	スローガン機・ゴム印・プレート等類・プリンターリース費
慶弔費	70,000	104,000	34,000	
慶弔費（シニアクラブ分）	0	51,250	51,250	
渉外費	50,000	16,000	-34,000	12L0M
国際渉外費	150,000	50,000	-100,000	兩港国際青年商會との調印式 記念品代
雑費	70,000	13,888	-56,112	振込手数料
雑費（シニアクラブ分）	0	550	550	振込手数料
雑費（シニアクラブ慶弔費分）	0	0	0	
合計	4,128,180	4,182,837	58,657	

入会、休会、退会者

【入会】	石井	貴久	4月 3日
	重田	真菜	4月25日
	樋口	佑菜	4月25日
	若林	正幸	4月25日
	戸板	駿介	4月25日
	堀木	亮汰	7月 3日
	伊藤	将希	7月30日
	矢野	貴大	7月30日
	生柳	久達	12月15日
	門脇	大樹	12月15日
	後藤	竜也	12月15日
	東	拓巳	12月15日
	樋口	真美	12月15日
	溝渕	友子	12月15日
	矢田	栄里華	12月15日
【休会】	秦	美郷	
	蛭波	敬	
【退会】	木村	卓也	
	真弓	裕也	

卒業生

有川 朋 邦
蛭 波 敬

後藤 亮 太
チャン ティエン シン フィ

杉 本 崇

中 島 和 人

シニアクラブ会員

岡 田 卓 也
林 悦 夫
村 山 喜 一
服 部 幸 男
山 路 恭 三
糸 内 蕃
鈴 木 正 勝
大久保 尚 一
永 田 正 巳
村 木 敏 雄
伊 藤 昌 男
村 川 賢 一郎
生 川 鐵 雄
東 川 強
米 山 茂
篠 宮 義 和
鈴 木 幹 雄
早 川 廣
伊 藤 和 彦
宮 崎 由 至
塚 松 博 文
伊 藤 隆
森 川 道 博
平 田 耕 一
牧 野 一 己
野 呂 知 生
矢 野 正 剛

水 谷 春 三
別 所 幸 藏
松 嶋 英 男
宮 嶋 邦 彦
石 津 英 尚
佐 治 英 三
野 沢 尚 高
伊 藤 英 二
伊 藤 洋 和
田 中 公 一
伊 藤 勘 作
今 村 良 隆
水 谷 俊 二
千 賀 範 昭
竹 内 裕
西 野 光 之
中 島 和 弘
加 藤 幾 恒
竹 内 稔
木 下 弘
長谷川 芳 之
伊 藤 一 美
滝 本 永 次郎
市 川 保
伊 藤 道 郎
三 田 高 司
関 恒 美

伊 藤 武 夫
島 田 豊
山 本 登
中 嶋 昇
小 林 昂 司
和田山 恵 三
高 井 良 司
山 手 幹 郎
渡 辺 久 和
北 岡 泰 爾
小 林 宏 祐
石 井 文 彦
豊 田 衛
安 藤 信 行
小 川 硬 一 郎
生 川 平 藏
仲 野 弥 和
阿 竹 一 之
小 林 一 成
鈴 木 康 之
岡 本 和 康
木 村 哲 美
清 水 良
大 山 吉 久
前 唄 裕 三
上 田 末 広
伊 藤 正 衛

中 嶋 正
豊 田 良 郎
平 野 太 七
永 井 啓 武
高 橋 一 三
内 田 優
月 野 光 政
堀 木 紀 徳
本 山 正 城
中 村 公 一
中 島 泰 浩
熊 野 孝 幸
萩 野 賢 司
青 山 學
栗 原 正 明
山 下 久 三 造
三 輪 和 豊
加 藤 隆 俊
田 村 博 志
三 平 一 良
清 水 常 雄
古 市 利 光
光 用 敬 一
大 橋 正 行
服 部 富 男
渡 辺 八 尋
高 橋 良 太

前	川	克	典	田	中	眞	禪	杉	本	雅	俊	山	路	和	良
宇	野	誠		森	崎	誠	二	川	村	武		鈴	木	順	一
西	正	敏		澤	田	秀	次	斎	木	俊	洋	堀	木	俊	男
井	手	広	行	田	中	克	宜	渡	部	俊	郎	浅	野	年	嗣
小	林	泰	子	田	中	邦	洋	真	田	文	雄	中	林	史	雄
吉	田	泰	宣	田	中	俊	行	川	村	美	治	市	川	典	彦
神	田	博		飯	嶋	清	和	山	本	行	恭	谷	口	龍	次
浅	井	清	司	内	田	嘉	衛	南	川	功		伊	藤	康	二郎
杉	野	克	幸	鈴	木	幸	志	渡	邊	正	夫	森	本	恵	幸
鈴	木	勝	士	高	尾	明	宏	大	矢	知	直	岡	田	克	也
山	本	歩		小	林	正	克	松	岡	武	男	三	谷	新	市
森	本	晋	司	浅	岡	史	郎	小	川	庄	治	矢	野	正	則
塩	川	彰	彦	宮	田	佳	典	古	川	典	明	中	澤	明	彦
藤	岡	傳		陣	田	清	士	長	谷	川	孝	伊	木	栄	次
細	野	和	美	中	川	直	之	鈴	木	茂	仁	市	川	勝	示
大	谷	浩	信	長	谷	川	裕	山	田	幸		後	藤	伸	一郎
中	村	良	人	渡	辺	順	吉	平	松	俊	範	山	路	熟	
梅	田	次	男	伊	藤	幸	昌	廣	田	隆	俊	廣	瀬	良	平
中	澤	秀	之	山	下	邦	男	小	川	真	也	青	山	弘	忠
伊	藤	文	夫	松	山	樹	雄	稲	垣	嘉	英	森	弘	尚	
北	川	隆	宏	村	田	嘉	宏	関	井	恵	秋	寺	本	豊	
石	田	稔		清	水	研	志	渡	辺	義	之	矢	田	正	喜
佐	藤	寿	洋	伊	藤	康	彦	今	村	佳	央	鈴	木	嘉	美
小	林	敏	孝	久	志	本	稔	森	公	平		三	宅	康	夫
黒	田	成	水	和	田	山	久	五	味	昌	純	西	岡	仁	
藤	谷	俊	文	堀	江	勝	也	伊	藤	正	俊	石	垣	宏	
森	下	育		門	井	恵	介	赤	塚	永	二	黒	田	和	宏
小	林	正	直	水	谷	勝	也	生	川	正	洋	伊	藤	正	章
豊	田	晃		木	下	卓	也	田	中	俊	徳	藤	牧	正	浩
奥	山	眞	弘	萩	文	三	男	杉	本	隆	繁	阪	倉	光	弘
山	川	成	喜	中	野	勝	方	山	本	利	光	伊	藤	旬	
大	森	和	義	服	部	幸	毅	服	部	浩	明	佐	藤	勝	教
伊	藤	弘	明	杉	本	暢	克	高	橋	正	浩	岩	崎	哲	治
水	谷	慎	志	新	内	成	彦	樋	口	博	也	坂	口	誠	
増	田	潤	治	渡	辺	誠	人	前	川	恭	範	長	谷	川	雅
鈴	木	靖	治	木	村	高	敏	山	路	政	毅	藤	原	和	彦
松	谷	久	弥	林	典	弘		難	波	修	二	矢	野	晶	久
竹	中	幸	一	柳	川	信	裕	水	谷	保	雅	萩	野	昌	毅

伊堤寺松野萩小佐西岡奥上荒田西山小伊小伊南土松矢中山西向山佐塚佐岩北中小水伊森	藤淑本岡村原野瀧田野岡野岡木村本藤川部田林下井口藤松々井岡村川谷藤寺	靖明匡伸幸宏武貴光良真治泰裕陽伊千勝一浩義繁勝朋五知久修賢大隆賢吉晃周彰奉	則宏年廣林士信夫太一生次也一仁秋美隆実幸人敬久大克夫一輔幸均範司仁	清水瀨川木崎藤野山路山賀智岡松前説益大山伊谷稲村伊大橋飯小佐渡服西田福津田大石伊	大勝貴直隆省昌恭靖洋弘光有篤誠悟吉和昭雄達浩将健哲寿将聡貴慎康正秀直裕元	喜也子生弘吾和司人靖洋朗高一恒夫人弘輝義哉次臣作也哉充子也仁雄隆英	豐萩矢杉服高伊岡阪若西中西児伊久佐西長森吉石勝平小市服岡藤芳石佐森脇安木若樋深	田原野本部野藤本元林原川岡玉東留美藤林谷由原井田林川部本村脇野尚藤村林口水	政正克雅好泰裕浩圭弘朋康朋光學美秀直起智卓敦裕勇淳貴正大昭泰貴辰龍陽	典彦尚照美宏司延介樹宏洋晃晃樹治裕子志光也久也隆史英輔成明也秀也馬介	早堀加山波今水小伊高菊宇嶋水北仲吉中伊服樋伊竹江山保舟近中萩樋堀大山熊宮堀金川	川内藤崎田井野林藤森池佐田谷岡井富村藤部口藤内間本位山藤川野尾木住田野崎木龍北	昌孝万博武利三正洋裕雄義吉克太誠直隆正晃裕章理寿敬真義雅順健重顯菜光由博植篤	彦二明樹昌弥幸介式一秀之輔民也宏人典貴史明吾則幸二愛樹成々洋太貴篤
---	------------------------------------	---------------------------------------	-----------------------------------	--	--------------------------------------	-----------------------------------	---	---------------------------------------	------------------------------------	------------------------------------	---	---	--	-----------------------------------

川崎嘉大
笠原幸枝
多田隼人
石橋朋和
橋本和幸
橋本真宏
大佛康二
森谷貢
西川(高木)友繪
大谷常雄
清水良保
生川雄規
藤原雄太朗
伊藤勝利
平野貴之
太田匡彦
平松大輔
矢野陽一
中山淳二
樋口裕起
石川史織

渡辺大雄
内山武將
岡村善広
森智広成
松本康規
江川稔規
里中祐介
岡田圭司
赤塚新豪
喜納理豪
鈴木浩介
西川晴義
山路幸輝
伊藤將士
福村和樹
大谷健輔
古川泰久
後藤純子
藤岡良輔
宮田知貴
伊藤尚貴

矢田武賜
中澤義一
阿竹一仁
竹内俊介
光本尚貴
前田大輔
萩村健
江間卓也
佐野貴代
式井一博
田村尚也
西田太郎
山中明善
徐正和
山路雄一朗
春日孝夫
川口真輝
刑部聖士
筒井淳士
光用翔太郎
田中光彦

大西岳夫
見取貴臣
加納大輔
有吉寿徳
坂大輔
柳川曜一郎
平田富太郎
丹羽昌邦
伊藤恵
渋谷文昭
鉛山龍登
橋本剛
泉晃多
西尾信太郎
伊藤祐一
辻中秀明
國安院ゆみ
芥川聡
平井敦
河本雄次
清水(今井)香里

以下の通り報告いたします。 2026年1月3日

理事長			仲野 仁裕
直前理事長			石川 史織
副理事長			田中 俊太朗
副理事長			西田 真之
副理事長			森山 陽介
副理事長			清水 一輝
専務理事			蛭波 敬
監事			野呂 京志
監事			後藤 亮太
理事	ブランディング委員会	委員長	杉谷 俊輔
理事	地域活性化委員会	委員長	秦 美郷
理事	地域活性化委員会	副委員長	有川 朋邦
理事	70周年記念委員会	委員長	早川 諒
理事	70周年記念委員会	副委員長	高茂 亮太
理事	渉外委員会	委員長	伊藤 佑輔
理事	渉外委員会	副委員長	中野 雄介
理事	事務局	事務局長	伊藤 公一
理事	事務局	財務委員長	中島 和人
理事	事務局	事務局次長	加藤 信宏

以上の通り相違ありません。

監 事	野呂 京志
監 事	後藤 亮太